

©創通エージェンシー・サンライズ



MG
MASTER GRADE
0101788

MG
GUNDAM
TYPE FA
BLACK USE
E.F.S.F.



BANDAI 2001 MADE IN JAPAN

パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。

BANDAI



MOBILE SUIT
RX-78GP03S

STAMEN

E.F.S.F. ATTACK USE
PROTOTYPE MOBILE SUIT



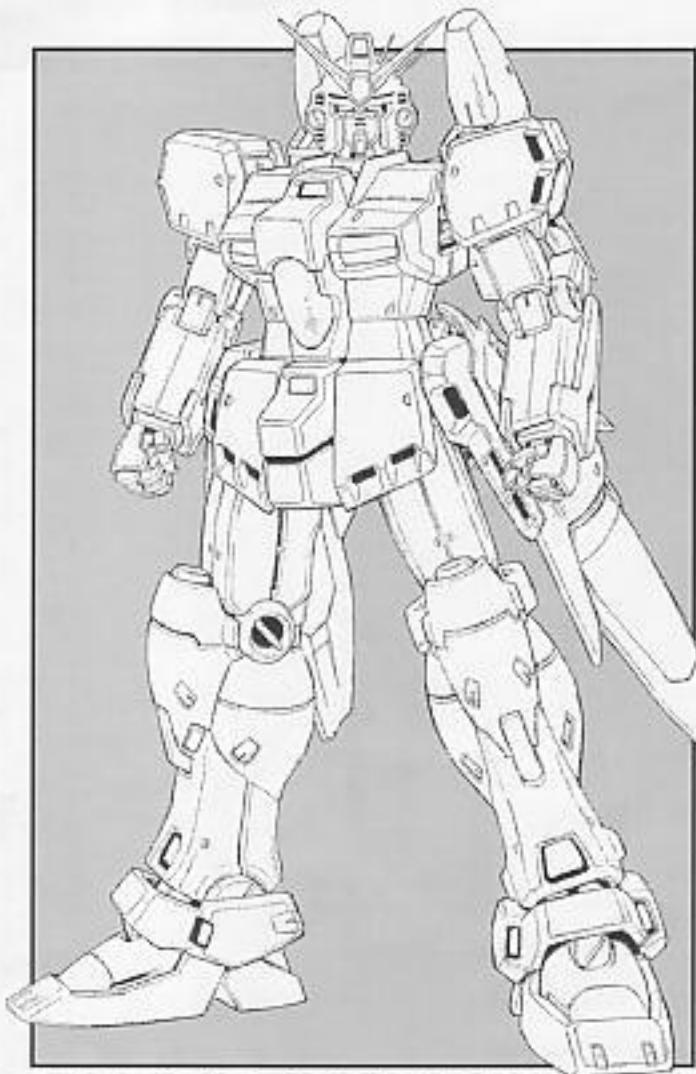
地球連邦軍
宇宙用攻撃型試作モビルスーツ
RX-78GP03S「ガンダム試作3号機 ステイメン」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 2001 MADE IN JAPAN

0100584

Scanned by Dalong.net



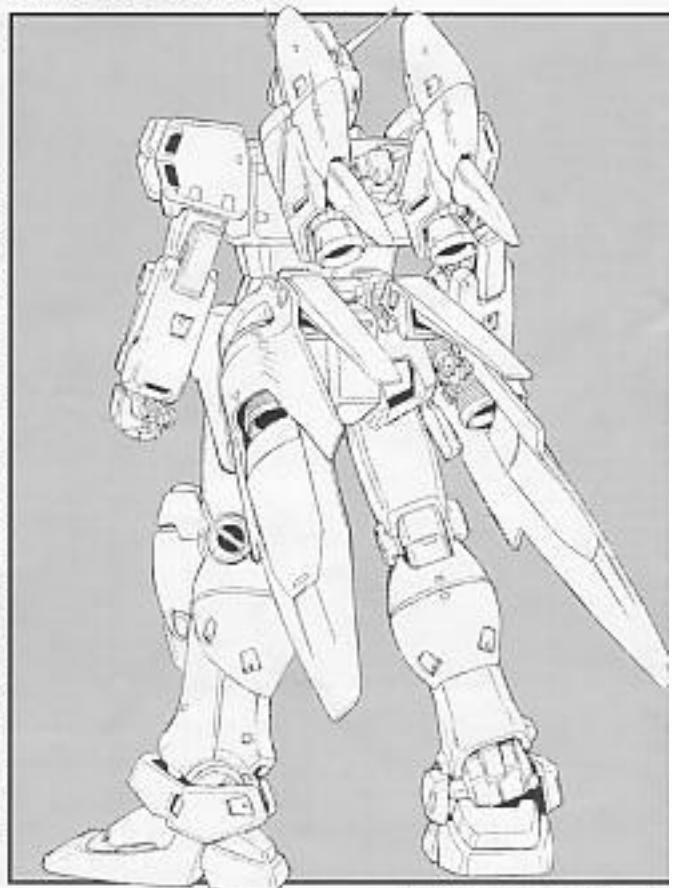


RX-78GP03S STAMEN

ガンダム試作3号機は、アナハイム・エレクトロニクス(以下、AE)が「ガンダム開発計画」に基づいて建造していたガンダムタイプの3体目の機体で、MSユニットのステイメンと、MA状のアームドベース・オーキスによって構成される巨大な機動兵器である。一年戦争当時、公国軍製MAの廉価を目の当たりにした連邦軍は、それに対抗し得る兵器開発の必要性を痛感していた。「ガンダム開発計画」の目標は、「最強の機動兵器」を生み出すことであり、当時の戦略、戦術で考え得る「あらゆる兵器の要素」を貢献にとりこむことで「史上最強のMS」を作り出そうとしていたのである。これは既存の「ガンダムとしてのスペック」と「新機軸の機能」を含む「要素の全て」を盛り込むことを意図している。試作1号機ゼフィランサスは、純粋なMS単体としての機動力、運動性能を追及した機体で、試作2号機サイサリスは最強の機動兵器に最強の戦略兵器を組み込んだ機体であった。そして試作3号機テンドロビウムは、MSとMAの性能を併せ持つ機体として作られた。ここでいう「MS」とは言うまでもなく「ガンダム」のことであり、基本的にはその仕様全てを含むものである。ラビアンローズでルセツからGP03のデータを見せられたコウが「これが全部……」と驚嘆したのも用意からぬ話だった。そこには、単機としては未だに有る戦闘単位であるアームドベース・オーキスが擁する全ての火器、武装、システムから、最小戦闘単位を「コア・ファイター」とする「Pスペック」のデータまで記載されていたからである。その後、3号機強奪のためテッキで実機を見たコウが、データを知っているにも関わらず「コア・ブロック・システムじゃない!」と驚いたのも当然で、そこには、ナカハ・ナカト中佐からデータのほとんどを押収されていた「全天周モニター」スペックの機体だったからである。ちなみに、GPシリーズには「花」をモチーフとしたコードネームが与えられており、3号機のコードネーム「テンドロビウム(テンドロ=樹木、ビウム=蒼生する)」とは、ラン科セッコク属の多年草で、1500種もの種生産を特徴とする。花言葉は「わがままな美女」。3号機のMSユニットが、特にステイメン=越しへと呼称されているのは、3号機全体をひとつつの「花」に見立てた場合の状態を指しているのだろう。

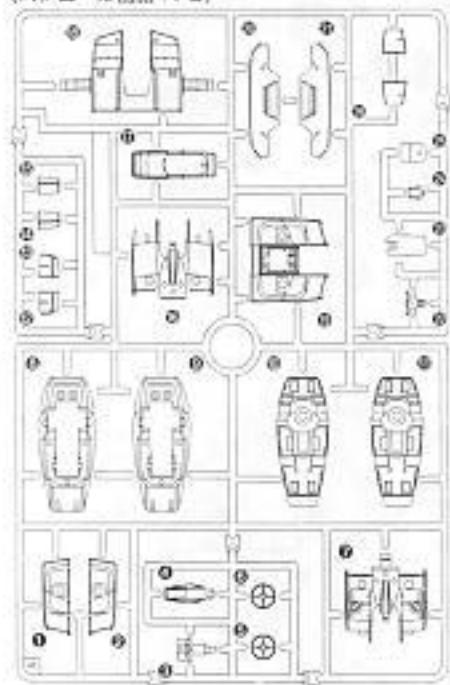
試作3号機は、出撃後も武器の換装が可能で、遠距離戦闘から近距離戦闘まで多様な戦況に対応可能である。その意味で、巨大な武器庫を備えたMSと言ふこともできる。MSの特徴が、高機動性と多様な戦闘、作戦に応じて武器の搭載と換装ができるという発想は、その特性を最大限活用させたものだと見えるだろう。加えてアームドベース・オーキス自体、莫大なプロペラントによる高機動性と長大なビーム砲、巨大なクローアームなどの強力な武装と「フィールド発生器による堅固な防御力を装備するMAそのもの」と言っても過言ではない。3号機を「宇田空間の拠点防衛用」の機体として見た場合、その要求は十二分に満たされていると言えるだろう。さらに、パイロットのサバイバリティが、最終的な「防衛」に含まれると考えれば、コア・ブロック・システムの採用が検討されたのも当然であり、実際、ファン・ブラウン工場におけるロールアウト(0083年10月4日)からラビアンローズでのトライアル開始(同年10月28日)までの期間は、調整に手間取ったとしてもかなりすぎであり、逆にコア・ファイターが実際に作られたのだとすると説の根拠のひとつになっている。その一方で、3号機の開発に関しては当初から難航が予想されており、特にオーキスと連動した場合のインターフェイスが複雑のひとつであったとされている。3号機は、パイロットが単独で制御するには過剰な質量を持つ機体である。例えば、旧公国軍製の大型MAは、複数のパイロット、ナビゲーター、ガンナーが連携していただのが普通だったし、そうでない場合はサイコミコによる補助がある場合がほとんどであった。そこで、一年戦争末期に「NT用」のインターフェイスとして開発された全天周モニターを採用したコクピットブロックが並行して開発されたのである。コア・ブロック・システムと全天周コクピットは全く異なる構造を持つが、球形コクピット自体は3号機の部材を採用できだし、1号機用のコア・ファイターIIの資材も流用できたため、胸部と腹部の崩壊装甲にはほとんど手を加えることなく崩壊ブロックが換装可能であったようだ。但し、実際にステイメン用のコア・ファイターが存在したかどうかは不明である。無論、どちらの仕様でもステイメン単体による格闘、近接戦闘などにスペック上の差異はほとんどなく、オーキスとのドッキングなどを考えて設計されたテールバイインターなどが、四脚との連動によるAMBAC効果を含む運動性能や機動力の向上をもたらしており、MSとしての性能も非常に優れている。後に、グリフス戦争時の激烈なMS開発競争の渦中で、バイインダーやスタビライザーの技術が多く採用されていることからも、ステイメンの持つ先見性は確実なものであったといえることができる。実質的にこの機体は、コア・ブロック・システムの有無に関わらず、数年後に開発されるMS群に比肩し得る性能を持っていたと言っても過言ではない。

(「Pスペック」とは、prototype=プロトタイプ、あるいはpistil=ねじべ、またはpollen=花粉、を指すと言われているが、資料が抹消されている上、開発担当者が死亡しているため、詳細は不明である)

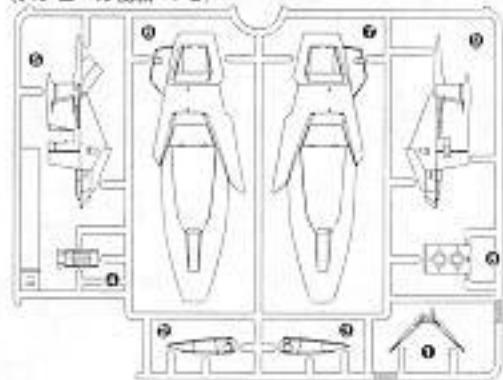


パーツリスト

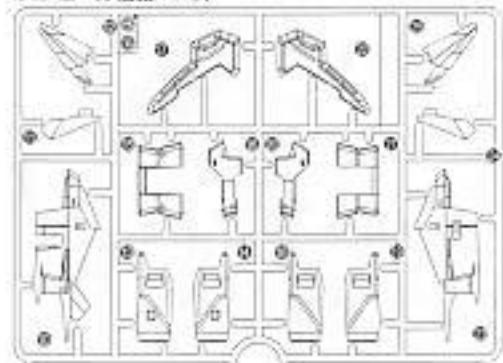
A/パート
(スチロール樹脂: PS)



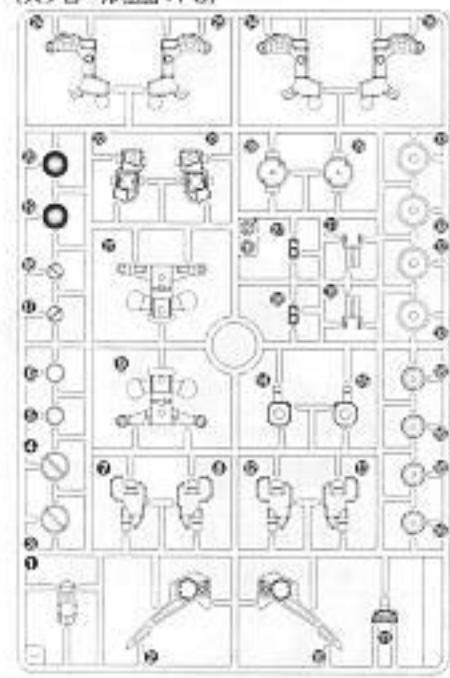
B1/パート
(スチロール樹脂: PS)



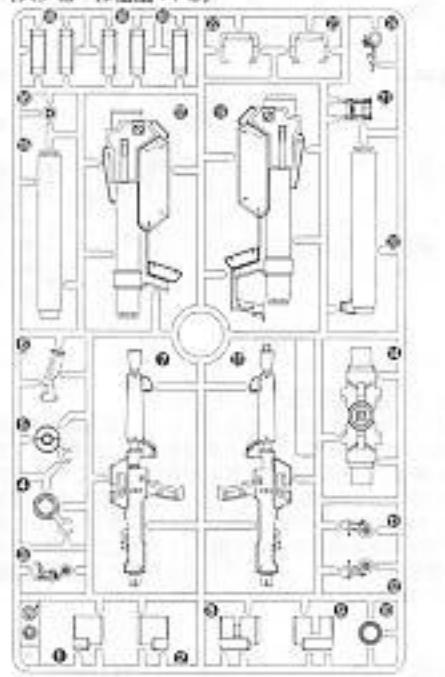
B2/パート
(スチロール樹脂: PS)

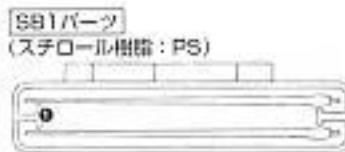
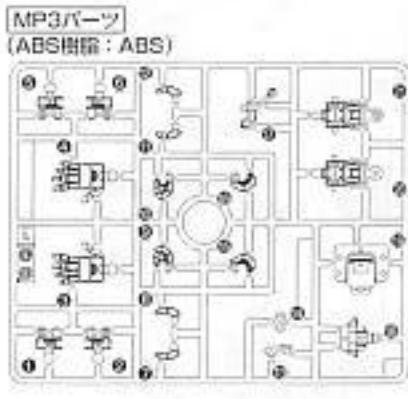
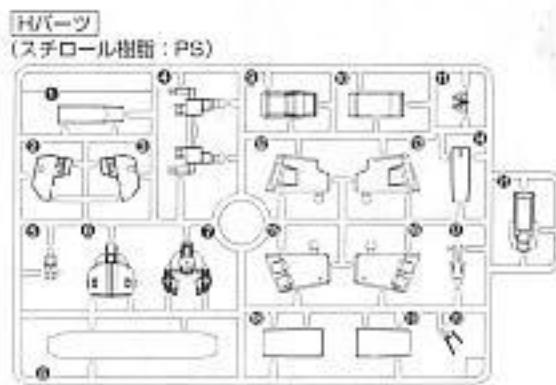
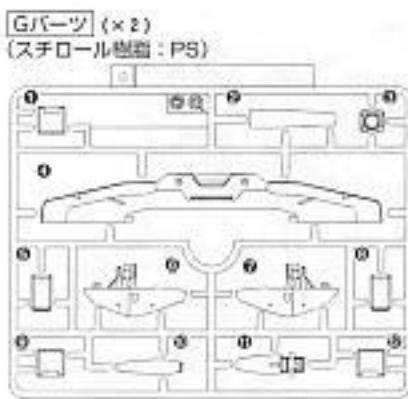
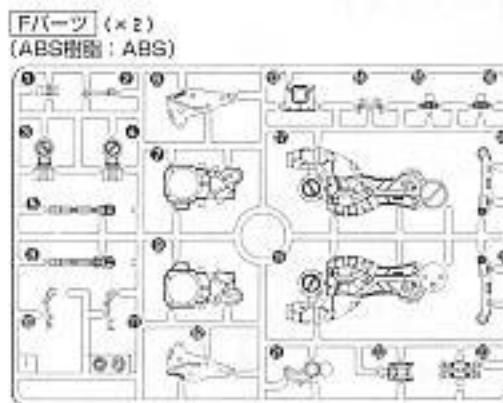
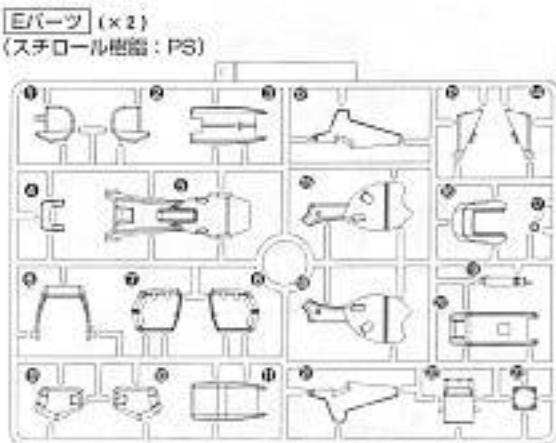


C/パート
(スチロール樹脂: PS)

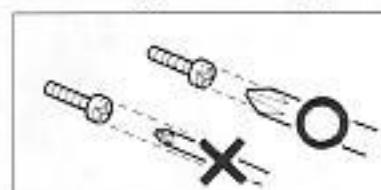


D/パート
(スチロール樹脂: PS)





カラーシール.....1枚
マーキングシール...1枚
ガンダムテカール...1枚
ビス.....2個



（お買い上げのお客様へ）

部品をこわしたり、なくした時は「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定期小為替をお買い求めいただき、封筒（裏面に必ず、お客様のあな名前、年齢、ご住所を明記してください。）にて下記までお申し込みください。代金は、部品代（1個40円×個数）+郵送料（120円）です。為替証書は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には別額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封筒にてお送りください。良品と交換させていただきます。

For Japanese use only.

部品注文カード 0101788-3500
1/100SCALE MGシリーズ
ガンダムGP03S(ガンダム試作3号機ステイン)

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●記された理由(○で囲む)にわざなくして

日中ご連絡可能な電話番号

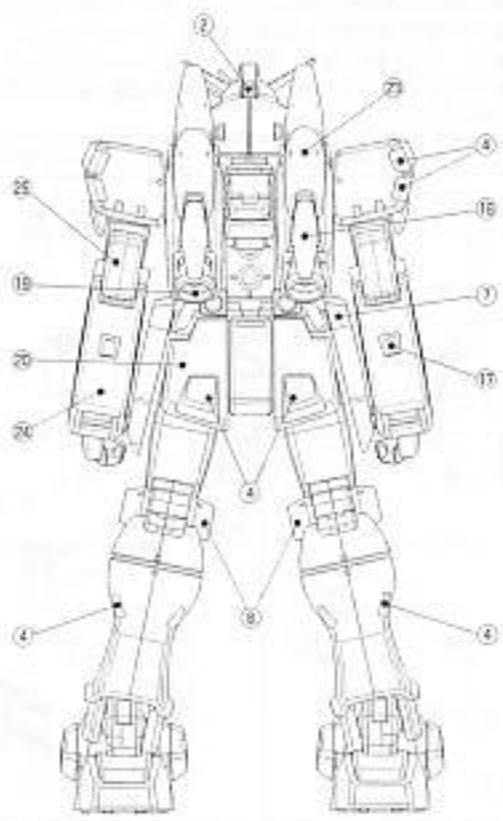
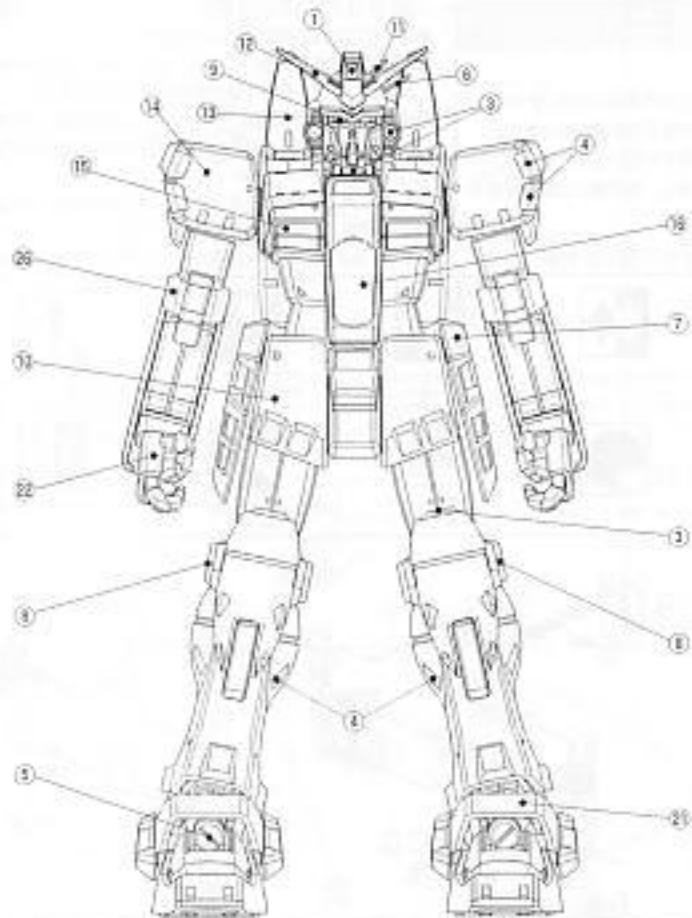
(- - -) '01.04

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

2001.04/T·ON

RX-78GP03S STAMEN

Parts name of
RX-78GP03S STAMEN



- ① メインカメラ
- ② リアカメラ/センサー
- ③ サブセンサー
- ④ サブスラスター
- ⑤ カブスタンスコントロールシステム
- ⑥ サブインターフェイスアンテナ
- ⑦ サイドアーマー/パンダーコネクター
- ⑧ ニージョイントアーマー

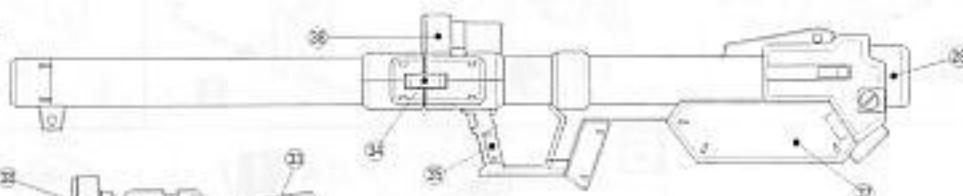
- ⑨ デュアルセンサー
- ⑩ フロントアーマー
- ⑪ モニタリングフレードアンテナ
- ⑫ マルチフレードアンテナ
- ⑬ ビーム・サーベルラック
- ⑭ ショルダーアーマー
- ⑮ ペンチレイテッドフィン
- ⑯ コクピットハッチ

- ⑭ 多目的ラッテ
- ⑮ 可動フィン
- ⑯ メインスラスター
- ⑰ アリアアーマー
- ⑱ マニピュレーター
- ⑲ パックパック
- ⑳ トリガー
- ㉑ フォールディング・アーム

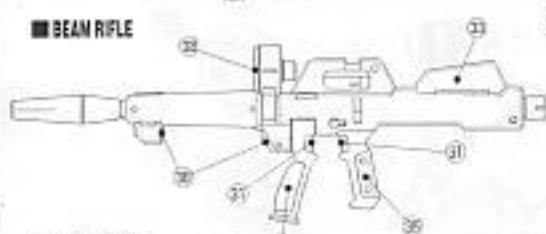
- ㉒ サポートアームクローズ
- ㉓ エネルギーパック
- ㉔ エルボージョイントアーマー
- ㉕ フォールディング・ジョイント
- ㉖ ビーム・サーベル
- ㉗ グリップ
- ㉘ ダクト
- ㉙ ジュッテジェネレーター
- ㉚ キャノビー
- ㉛ マガジン
- ㉜ サイトセンサー
- ㉝ ランディングギア
- ㉞ フォールディング・シールド

注) RX-78GP03S ガンダム試作3号機ステイメンは、一年戦争終結後の「ガンダム開発計画」により極秘裡に建造された。U.C.0083年11月11日、テラーズ・フリートによる「コロニー落とし」阻止のため出撃し、ノイエ・ジール、ガーベラ・テトラ等と激戦を繰り広げ、大破している。

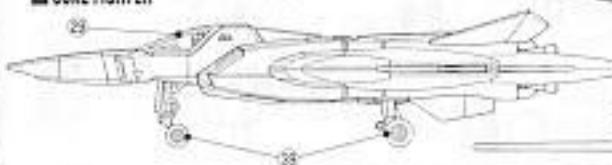
FOLDING BAZOOKA



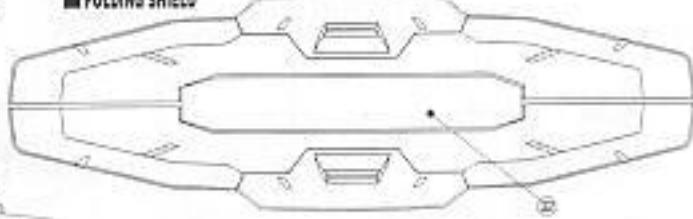
BEAM RIFLE



CORE FIGHTER



FOLDING SHIELD



BEAM SABER

△ 注意

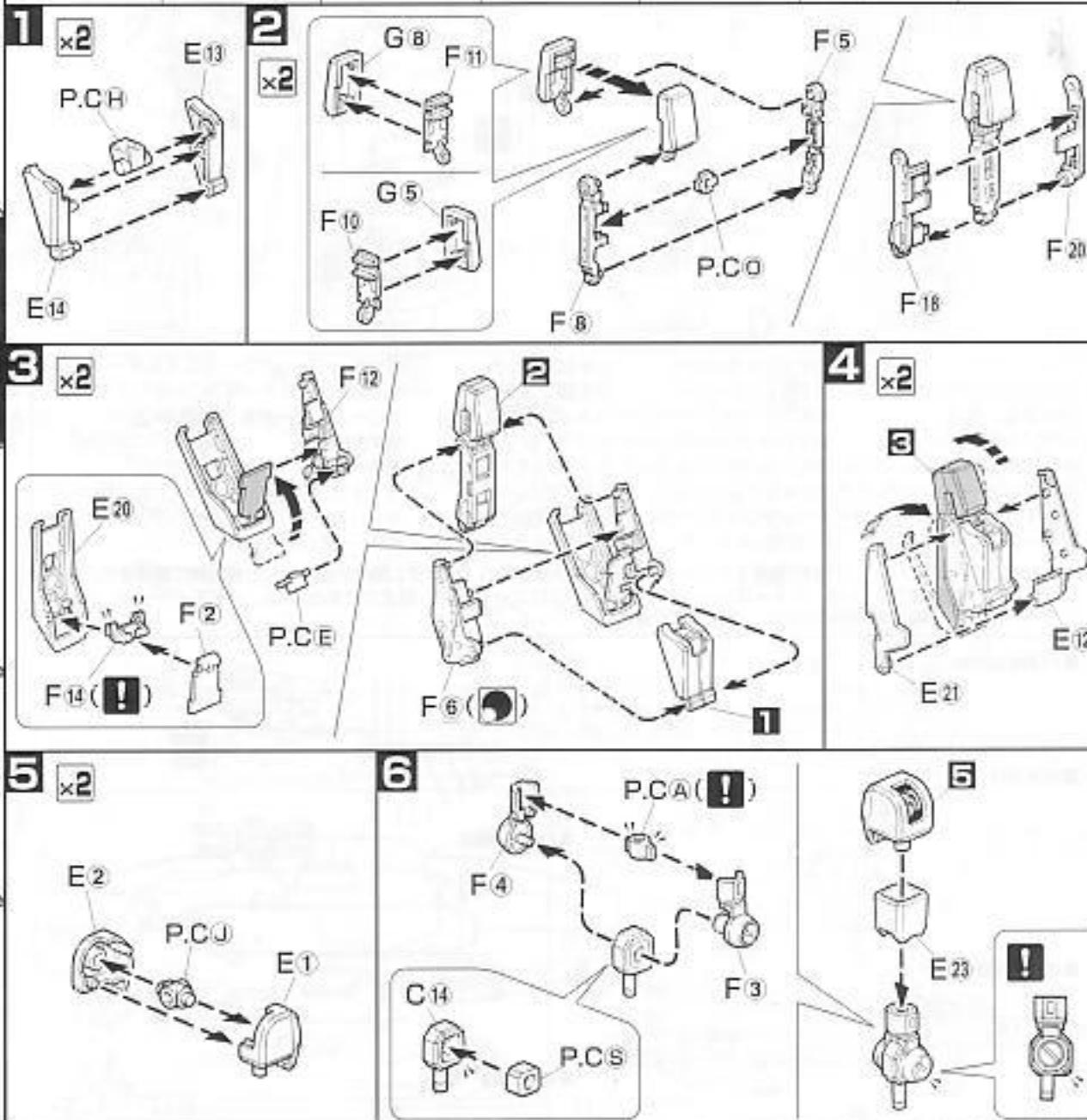
必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。(幼い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、頭を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+(プラス)ドライバーを使いますので別にご用意ください。

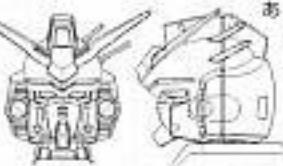
〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクスは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などを使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。



HEAD UNIT

GP03Sのヘッドユニットは、ガンダム開発計画に基づくモニタリング用装備の他、各所にサブセンサー類が高密度に実装されている。これは、通常の状況把握のみならず、複雑な火器管制システムをコントロールするため、独自の制御デバイスを装備している。



GP03Sのヘッドモジュールは、ガンダム系のシルエットを持ちながら、モニタリング用の装備や走査端末などには独自のデバイスが装備されている。また、原則的にオーキスとの連動が前提とされるため、ある程度の連携誘導や最低限のドッキングコントロールが可能な相互通信システムを備えている。ミノフスキーパーツの散布濃度によっては、連携攻撃も可能であつたらしい。

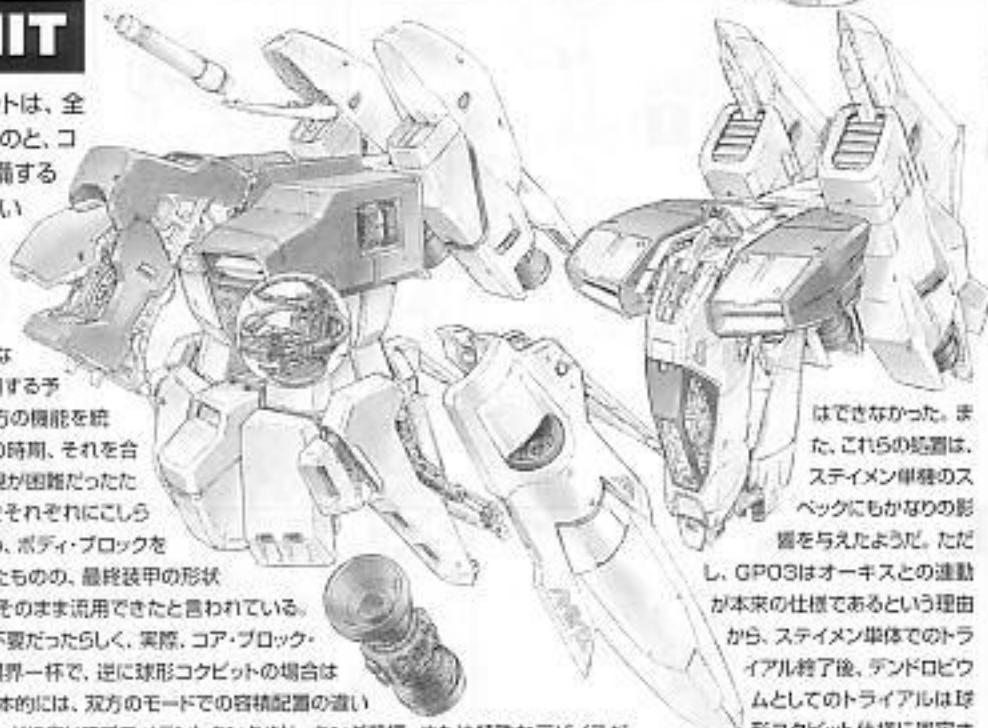
実際、火器の換装そのものはドッキングしていくことも可能であり、電波、レーザー、接触回線などを通じて武器供給が可能だったと言われている。



BODY UNIT

GP03Sのボディユニットは、全天周モニターを装備するものと、コア・ブロック・システムを装備するタイプのものが検討されていた。これはGP01のFb化のように時期的なものだった可能性もあるようだ。

GP03Sは、当初、構造の異なるコクピットシステムを複数採用する予定だった。それは、将来的に双方の機能を統合する構想があったため、この時期、それを合わせ持つインターフェースの実現が困難だったため、双方に特化したコクピットをそれぞれにこしらえようとしたのである。そのため、ボディ・ブロックをまるごと交換する必要こそあったものの、最終装甲の形状やコクピットハッチなどは、ほぼそのまま流用できたと言われている。GP01とP01などの設計変更も不要だったらしく、実際、コア・ブロック・システムの場合は胸部が構造限界一杯で、逆に球形コクピットの場合は腹部が構造限界一杯となる。基本的には、双方のモードでの容積配置の違いを調整するため、それぞれのモードに応じてプロペラントタンクやドッキング機構、または特殊なデバイスが適宜組み込まれることになっていたらしい。しかし、双方のコクピットブロックは、完全に互換性のある構造に



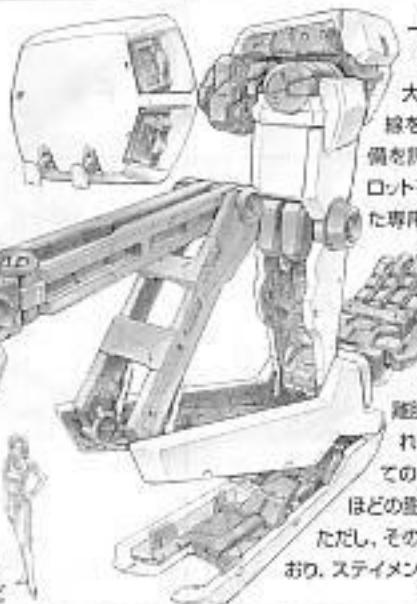
はできなかった。また、これらの部品は、ステイメン単体のスペックにもかなりの影響を与えたようだ。ただし、GP03はオーキスとの連動が本来の仕様であるという理由から、ステイメン単体でのトライアル終了後、テンドロビウムとしてのトライアルは球形コクピット仕様に固定されたままとなつたらしい。

ARM UNIT

GP03Sの腕部は、オーキスを含む“テンドロビウム”としてのシステムを構成する重要な部位である。これによってGP03は、未曾有の戦闘能力を發揮することができる。

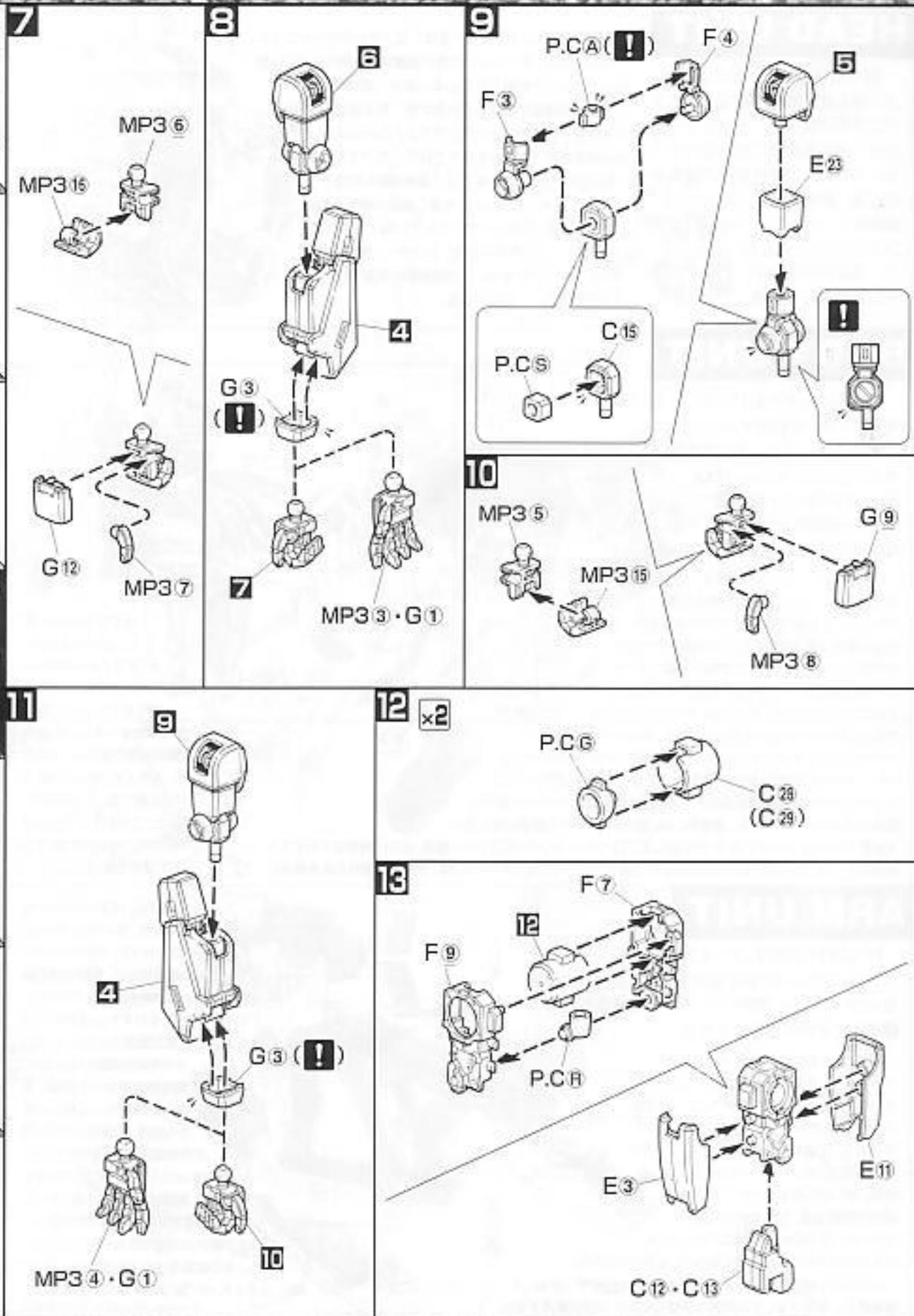
GP03Sの腕部は、フォールディング・アームを展開することで、およそ3倍以上のリーチを持つ。これは、言うまでもなくアームドベース・オーキスとの連動のために、これなくして「システムとしてのGP03テンドロビウム」は完成しないのである。つまり“ガンダム試作3号機”とは、MSユニットであるステイメンが、コントロールユニットとしてオーキスとドッキングしている状態のことを言うのである。

GP03は、戦況に応じてウェポンコンテナから任意の武装、火器を選択し使用する。その武装は多岐にわたり、MSが使用するビ



ーム・ライフル、バズーカ、シールドはもちろん、マイクロミサイル、大型集束ミサイル、500mの導爆線を持つ爆導策など、多種多様の武装を誇る。コンテナは合計で10のスロットを持ち、それぞれに規格化された専用の武装が装備されている。MSの平均的な駆動パターンが、遠距離爆撃から中距離に至り、実体弾やビーム砲の応酬から機銃、新鋭用武装による近接戦闘に至り、後にそれぞれ離脱するというフォーマットから考えれば、戦闘状況によっては、逆に全ての武装を使い切る事の方が難しいほどの膨大な火力であると言えるだろう。ただし、その武装を活かすも殺すも、文字どおり、ステイメンの“弱”次第なのである。

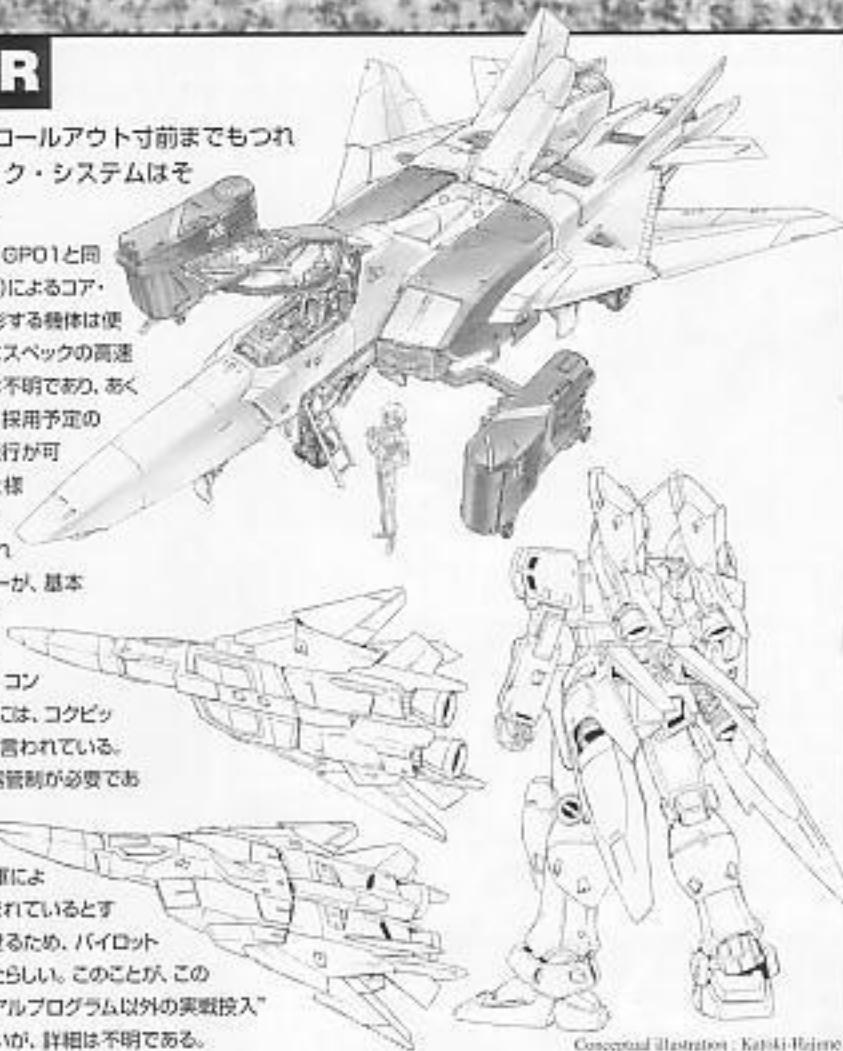
Mechanism illustration: BEE-CRAFT



CORE FIGHTER

GP03Sのコクピットの仕様決定は、ロールアウト寸前までもつれ込んだとする資料もある。コア・ブロック・システムはそれほど有用なシステムでもあったのだ。

GP03Sは元々“ガンダムタイプ”的MSであり、GP01と同様の水平収納方式(ホリゾンタル・イン・ザ・ボディ)によるコア・ブロック・システムの採用が検討されていた。変形する機体は便宜上コア・ファイター II-Spと呼称され、標準的なスペックの高速戦闘機、または空間戦闘機である事以外の詳細は不明であり、あくまで試験用の機体であったことを物語っている。採用予定のジェネレーターの素性からいって、大気圏内の飛行が可能な可能性もあるという。同様に、武装の仕様なども不明だが、サーベル・ホルダー部分にデバイスを兼用するビーム・ガンの装備などが検討されたようだ。これは、Pスペック用のコア・ファイターや、基本的にGP01のコア・ファイター IIを踏襲する系統の機体であったことを物語っている。ただし、形状、構造的にはステルス性も盛り込まれており、コンセプトは必ずしも同一ではなかったようだ。一説には、コクピットプロブロックのみによる大気圏突入も可能だったと言われている。結局、GP03には、機体制御の他に膨大な火器管制が必要であるため、全天候モニターがデフォルトのコクピットとして採用されることとなった。加えて、AEが自ら開発したリニアシートも組み込まれ、連邦軍による特殊な火器管制用の補助デバイスも組み込まれているとする説もある。そのシステムを最大効率で稼働させるため、パイロットには特定の方向による操縦なども推奨されていたらしい。このことが、この機体の秘匿性を更に高くしているらしく、“トライアルプログラム以外の実戦投入”を軍上層部が頑なに拒んだ理由もそのためらしいが、詳細は不明である。



Conceptual illustration: Katsuki-Hojico

WEAPONS

ビーム・ライフル

GP01が使用していたモデルの出力向上型。エネルギーパックなども同等品だが、助起レベルが改善され、より稼働が安定した。



敵のビーム・サーベルを防護する“ジュッテ”機構も引き続き採用されている。

GP03Sの武装のほとんどは、オーキスとの連携を考えて新たに調達、設計されている。ただし、それらに使用される炸薬やセンサー、デバイスそのものには、実績があつて信頼性の高い部材が用いてある。

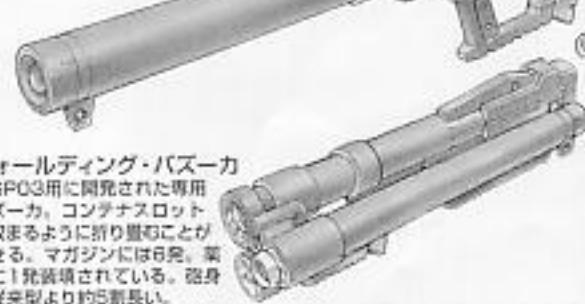
ビーム・サーベル

同時期の量産型に採用されているものと同様のデバイスが使用されている標準的な武具。



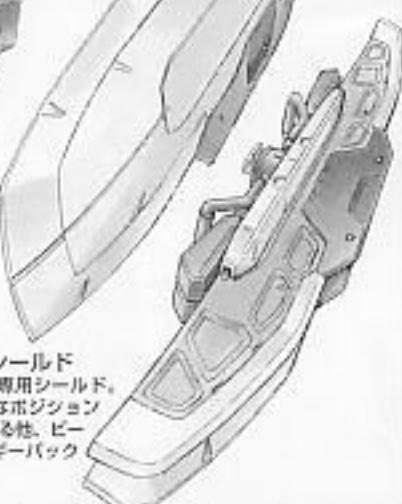
フォールディング・バズーカ

GP03用に開発された専用バズーカ。コンテナスロットに収まるように折り畳むことができる。マガジンには6発、蓄電池に1発装填されている。砲身は従来型より約5割長い。



フォールディング・シールド

GP03用に開発された専用シールド。上下対象型で、どのようなポジションでも扱いやすく配置してある。ビーム・ライフル用のエネルギーパックを計4個装備している。



DENDROBIUM



U.C.0083年11月11日。デラーズ・フリートによる月面へのコロニー着陸を阻止すべく、ガンダム試作3号機登場のためラビアンローズに入港したアルビオン隊は、デラーズ・フリート襲撃の任を解かれ、第401警戒中隊によって禁足されてしまった。加えて、ラビアンローズへの駐留と、同施設及び3号機の警護を命じられたのである。コーウェン中尉の内訌を得ていたはずの任務に話題が加えられたのだ。3号機を間接したルセット・オーピーもまた、完成したばかりの3号機が、均右ない軍艦の悲劇で取り上げられてしまうことを危惧していた。由緒みするコウを始め、アルビオン隊のクルーたちは、このまま待機することしかできないのだろうか。そんな中、コロニーがコースを変え、地表へ降着することが明らかになった。今、デラーズ・フリートを攻撃できるのはアルビオン隊だけだった。もはや指揮している割はない。3号機のデッキに向かうコウとルセット。ところが、警戒中隊のナカト少佐は、任務を遂に一步も踏まず、焦点の定まらぬ目持ちで銃口を二人に向けていた。そして、MSデッキに銃声が響り響く……。

DEFENCE LIMITED POINT

U.C.0083年11月12日。状況打開のため、敢えて反乱を承知でラビアンローズを出航したアルビオン隊は、コロニーの防衛限界点に向け前行き続ける。先行したデンドロビウムは、ガトーの駆逐ノイエ・ジールと戦闘を繰りかが、双方共に致命傷を与えることができないまま、互いに本隊へと帰還。補給の後、再び、ひたすらコロニーを追う。時間はかりが過ぎる中、アルビオン隊にデラーズ・フリート別動の追撃隊が追いかかる。迎撃のため、オーキスから分離してMG戦を仕掛けるコウのステイメンは、凶るザク、リック・ドムの群れを相手に、獅子奮迅の戦闘を繰り広げる。僚機を駆るギース、モンシア、アドル、ベイトらも、トリンントン以来の懸念を晴らすべく、敵を撃ち抜けている。辛くも皆MS部隊を逃けるものの、クルーの疲労も極限に達していた。地球軌道周辺となったその時、その後方には無数の光が輝いていた……。



DESPAIRING FIELD

U.C.0083年11月13日。デラーズ・フリートとの戦いは終った。コロニーは地球に落ち、アルビオン隊は敗北した。ガトーとの決戦もつけられぬまま、大破したデンドロビウムの中で氣付いたコウは、自分と戦うために待っていてくれたガトーとの対決に割り込んできた正統的な光芒を思い出しながら、もはや武器と化したオーキスからステイメンを引きずり出すように分離させ、あてもなく漂っていたビーム・ライフルを手にとった。と、モニターの片隅に、軌道艦隊のものであろうサラミスが見えた。その画面に、ひどく許せない存在を感じたコウは、それまでのすべての感情を、その存在に詰め重ね、激情に駆られてライフルのトリガーを引き絞っていた。「うああああああっ!!」しかし、ビームの光跡は遠く宇宙の間に消えていくだけだった……。

ACTION POSE



LEG



WEAPONS



PAINTING

よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご用ください。

※油性には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

●このキットをよりリアルに塗装したい方は、グンゼ産業より発売のガンダムカラー(MG「ガンダム試作3号機スティメン」用)をお使いください。

本体の塗装色。
ホワイト(100%)
またはガンダムカラー ホワイト

腕部の塗装色。
コバルトブルー(60%) + インディブルー(40%)
またはガンダムカラー ブルーライ

コクピットハッチなどの塗装色。
モンザレッド(100%)
またはガンダムカラー シャド

脚部インテークの塗装色。
イエロー(70%) + オレンジイエロー(30%)

脚部の塗装色。
ニュートラルグレー(80%) + ネイビーブルー(10%) + グレー(5%) + パープル(5%)

武器の塗装色。
ネイビーブルー(70%) + ミディアムブルー(30%) + パープル

センサー類の塗装色。
螢光グリーン(100%)

FRONT VIEW



REAR VIEW



△ 腕部は装甲の展開及び内部メカの回転、伸長によるフォールディング・アームを精密に再現。

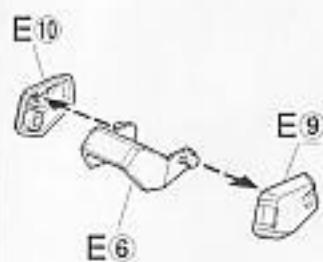


△ 背部パックパックのサーベルラックが展開、ビーム・サーベルは、脱着可燃。

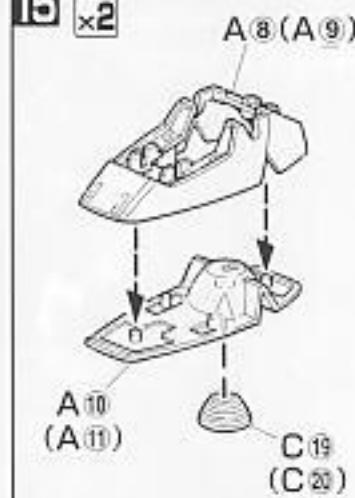


△ コア・ファイターは変形し、もう1つのコクピット及びパックパックとして胴体に結合可能。

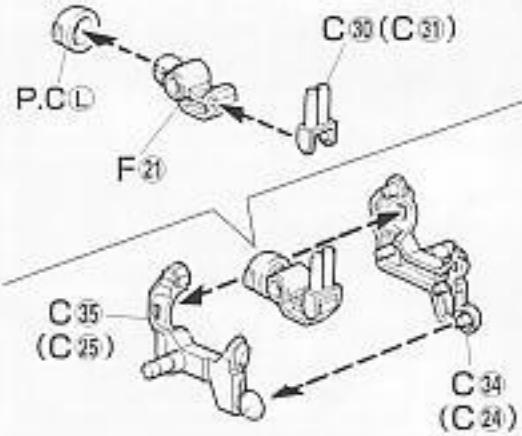
14 x2



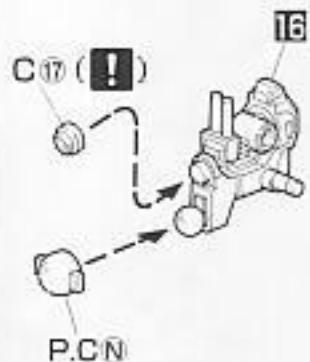
15 x2



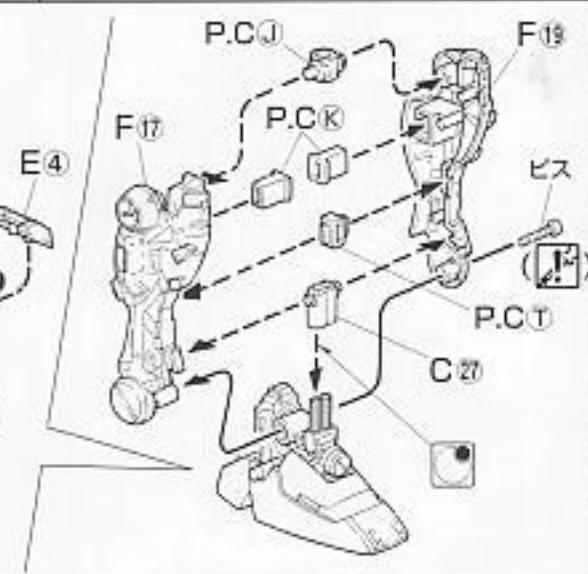
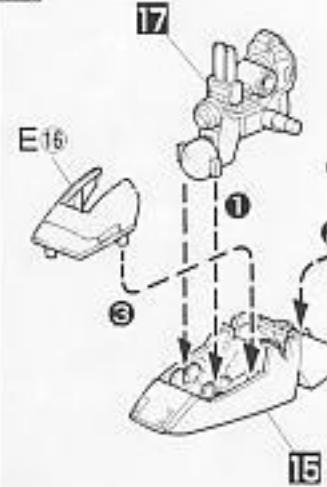
16 x2



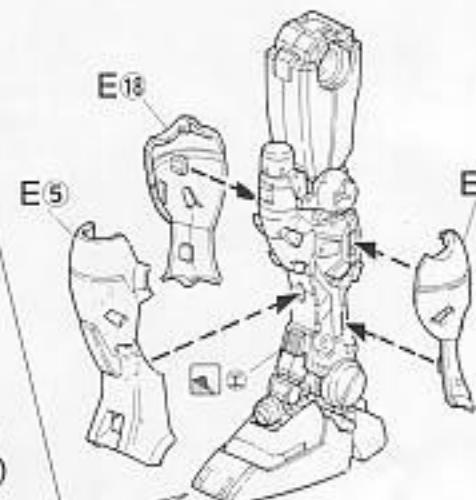
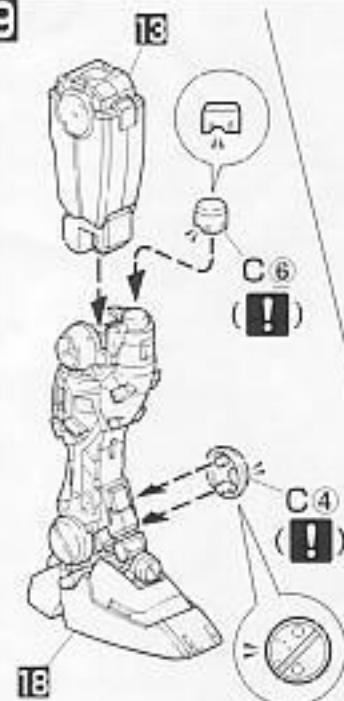
17



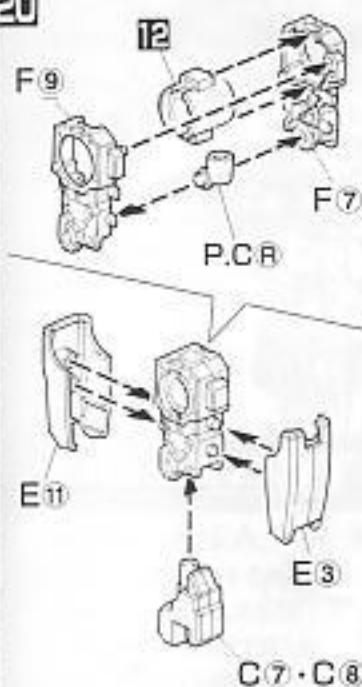
18



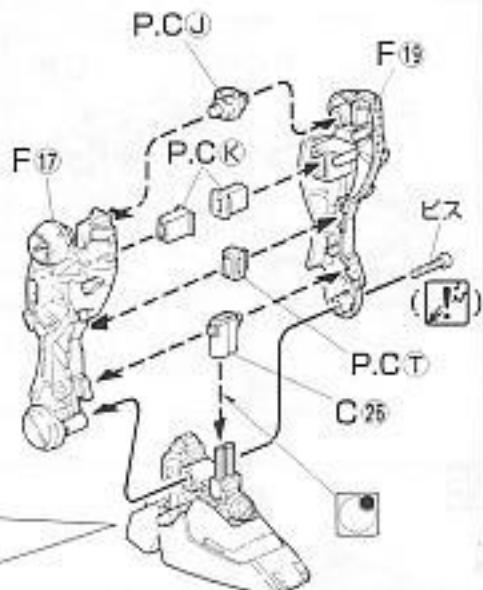
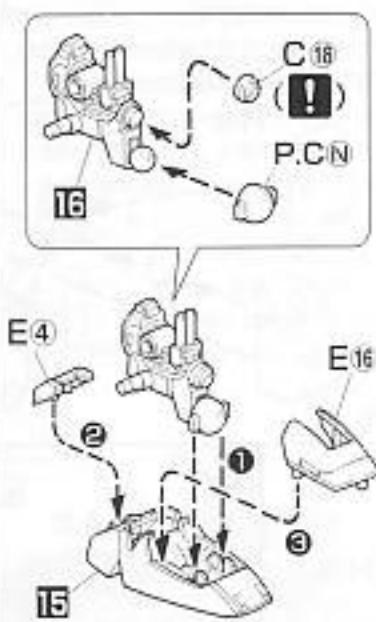
19



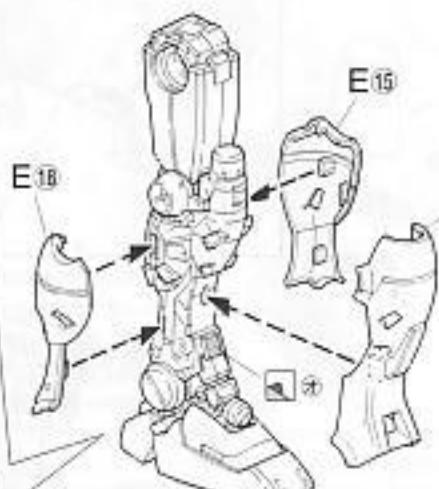
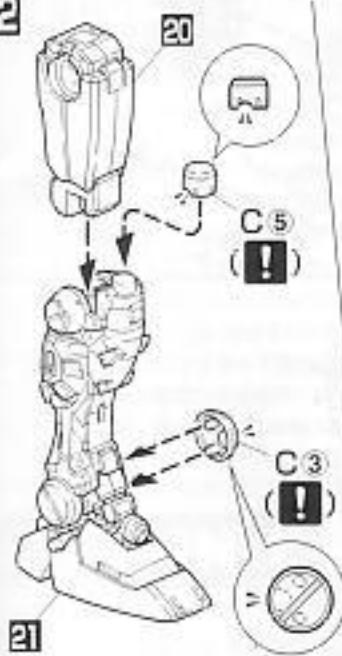
20



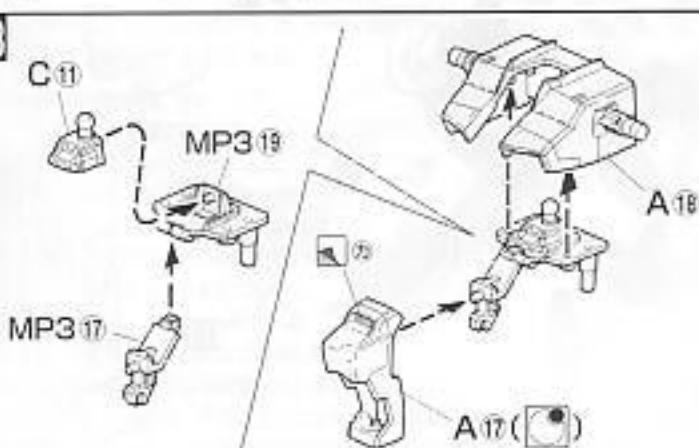
21



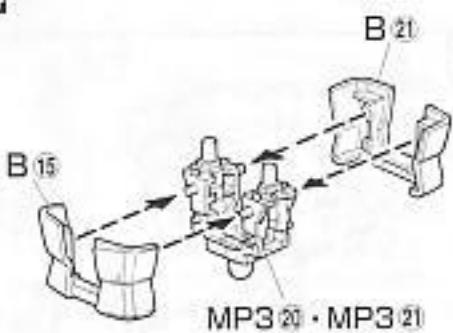
22



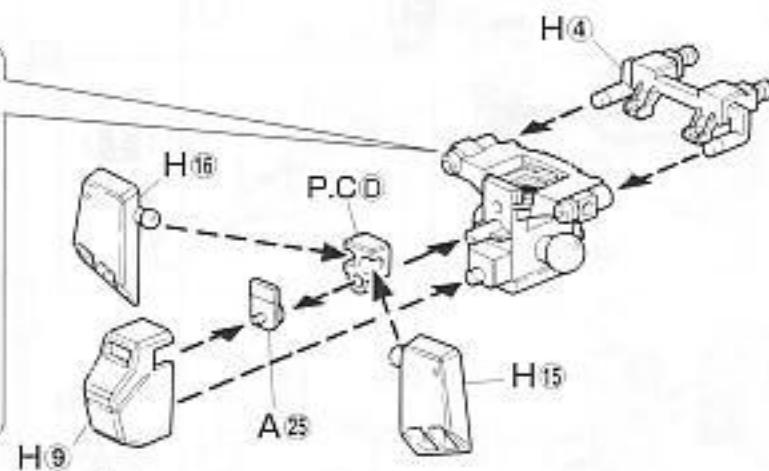
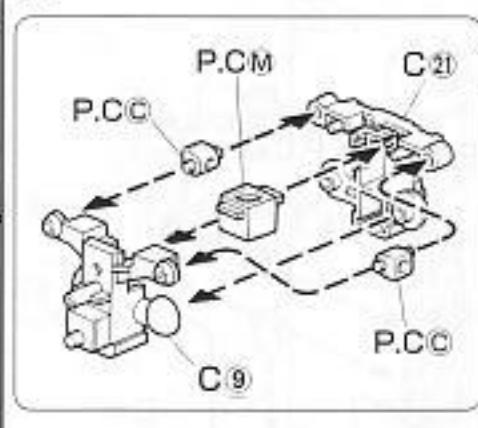
23



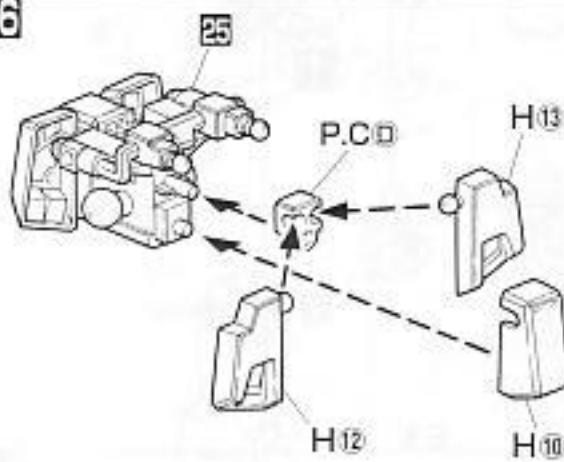
24



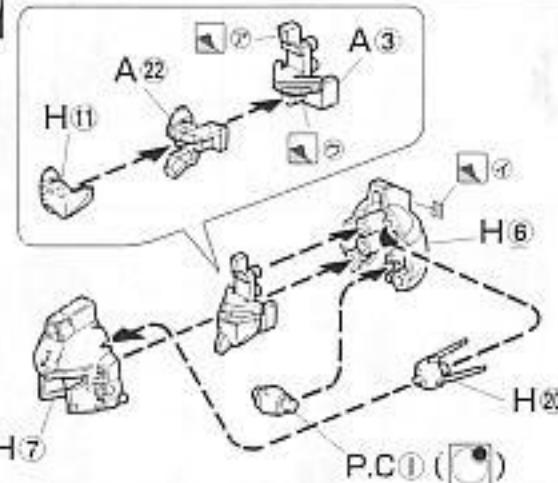
25



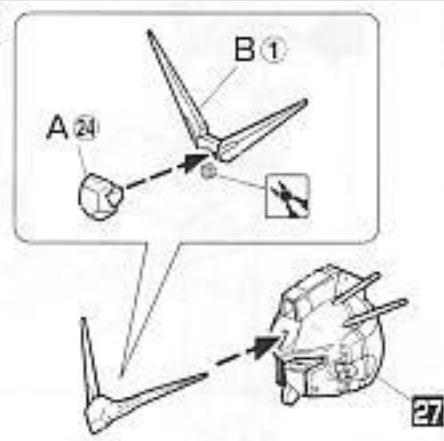
26



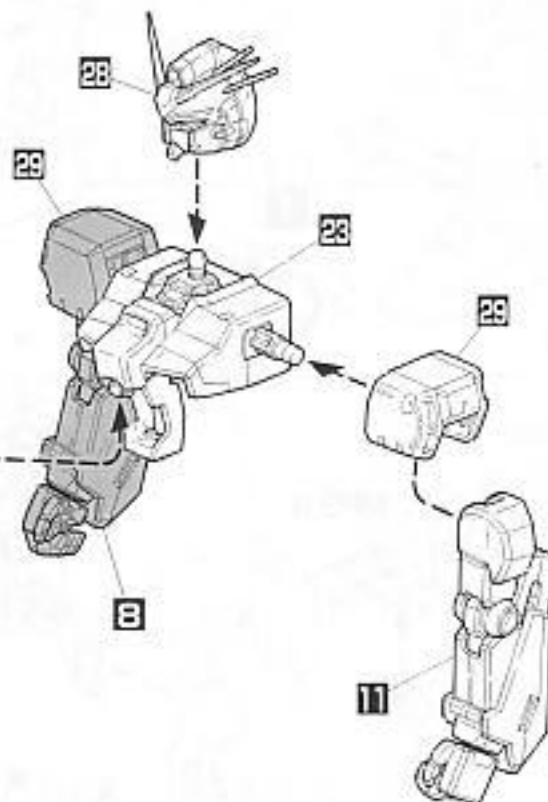
27



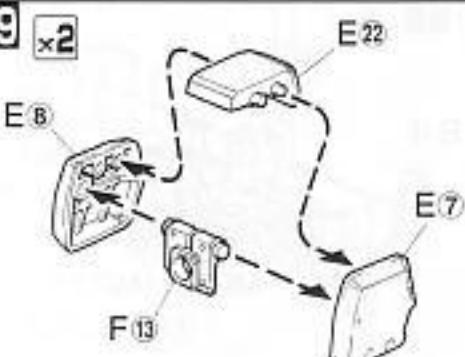
28



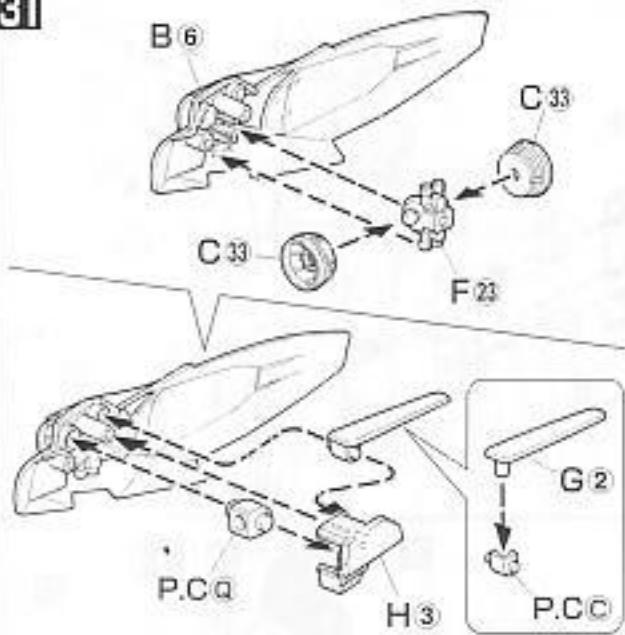
30



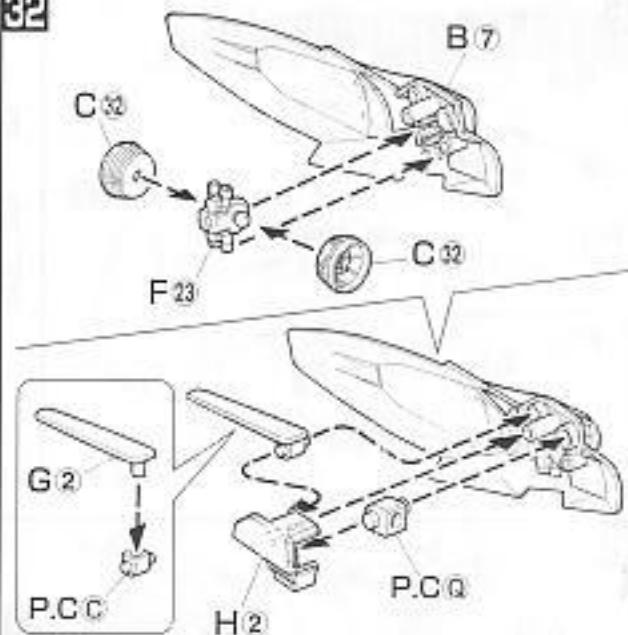
29



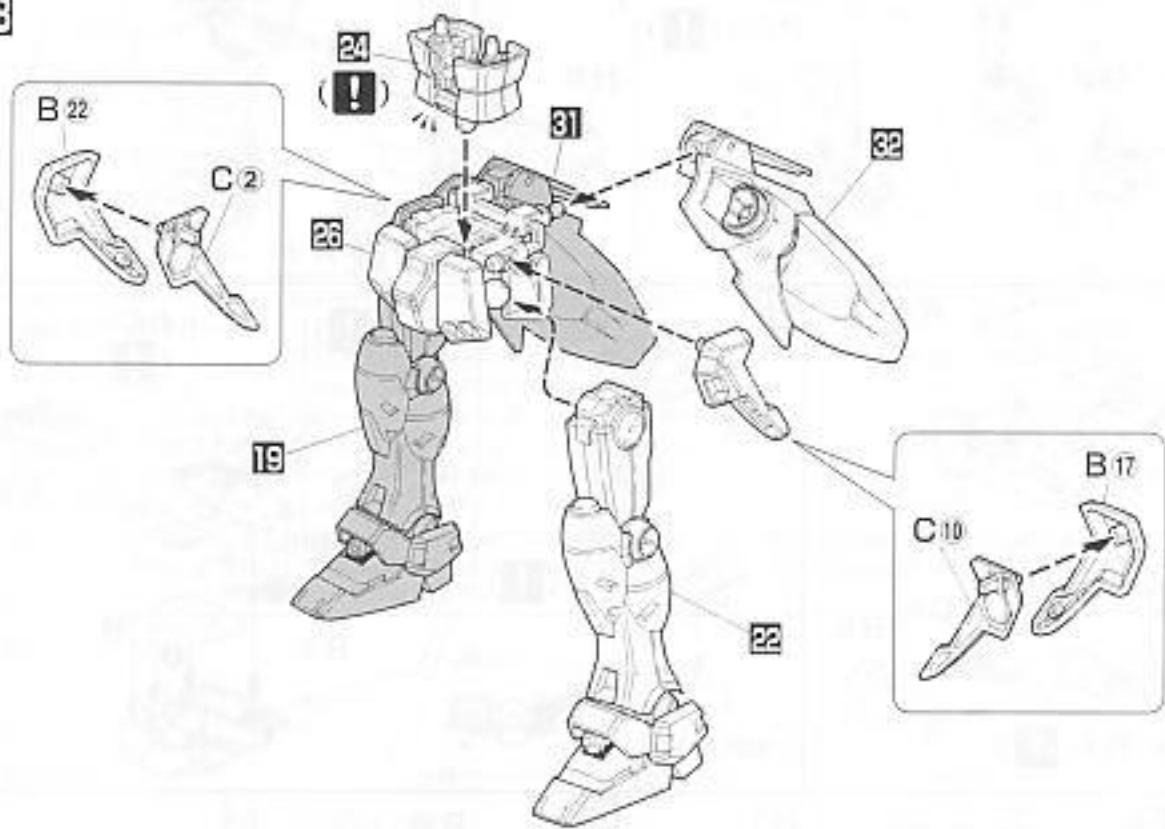
31



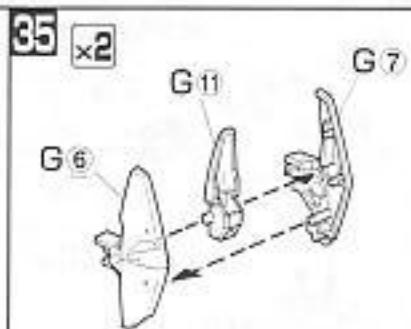
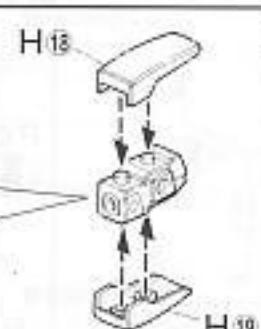
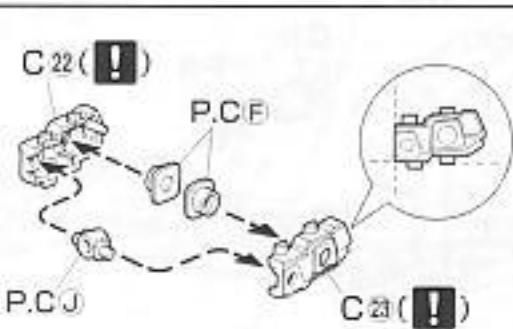
32

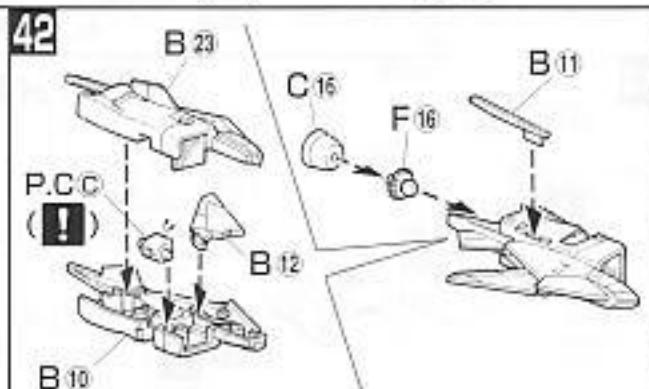
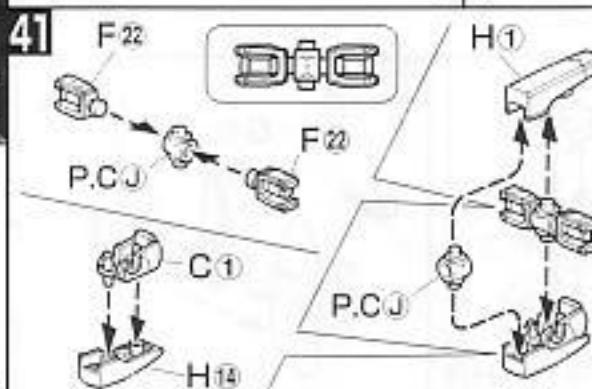
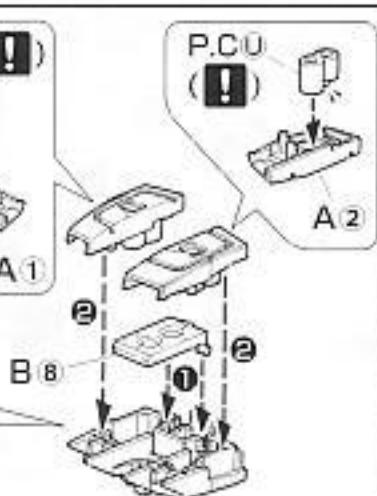
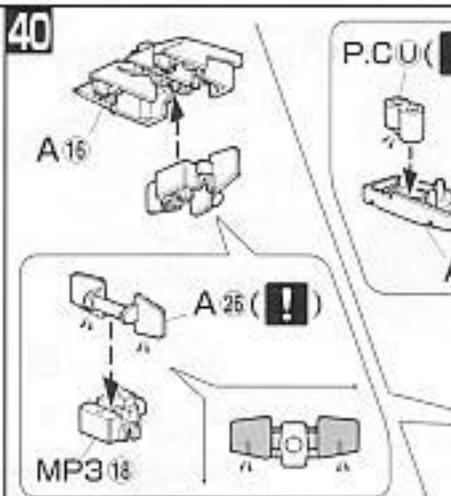
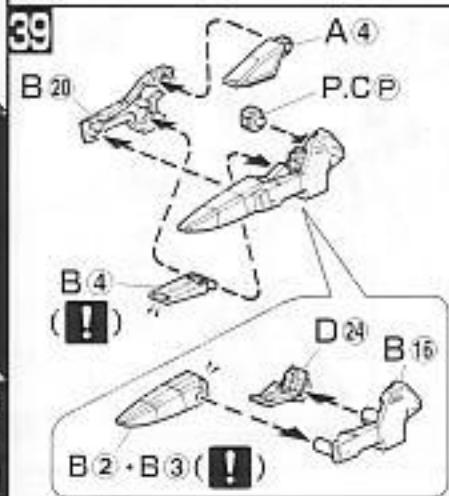
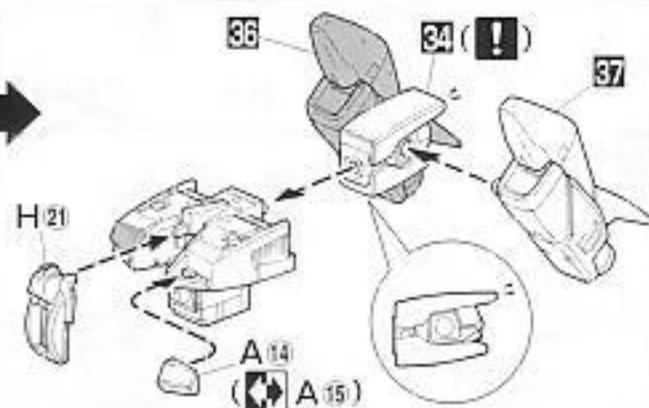
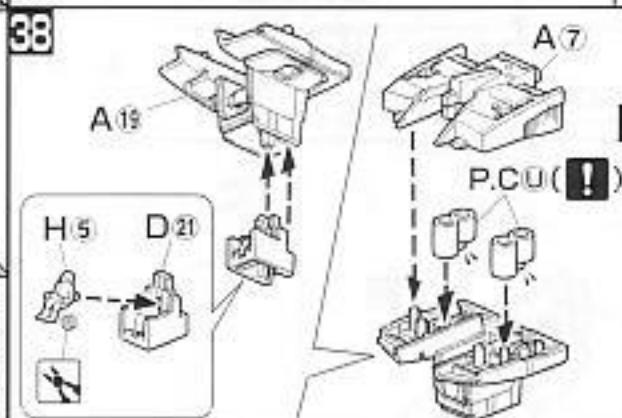
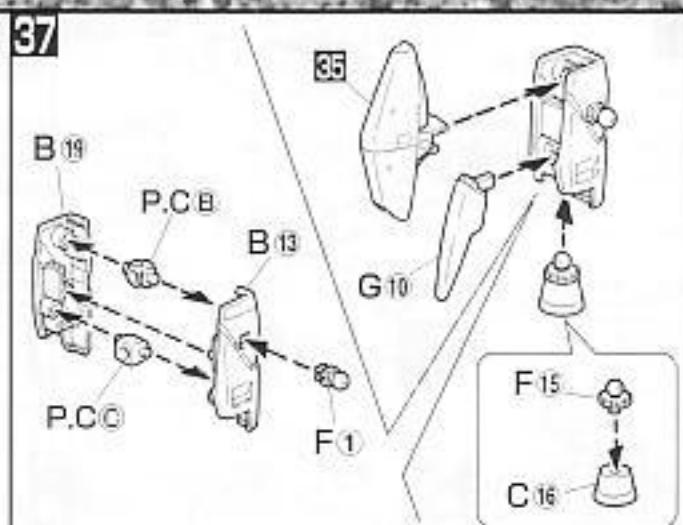
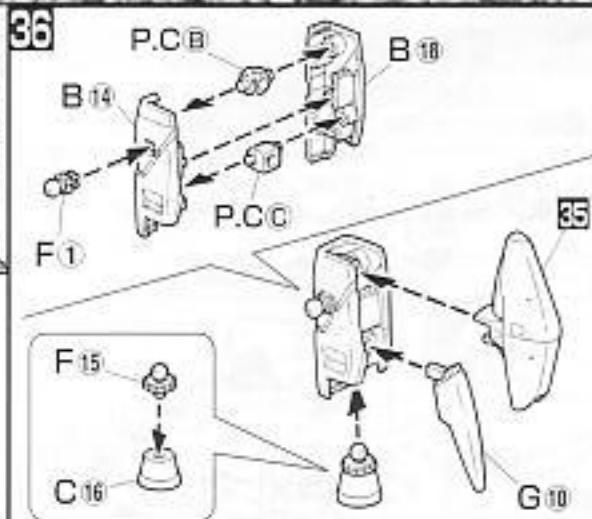


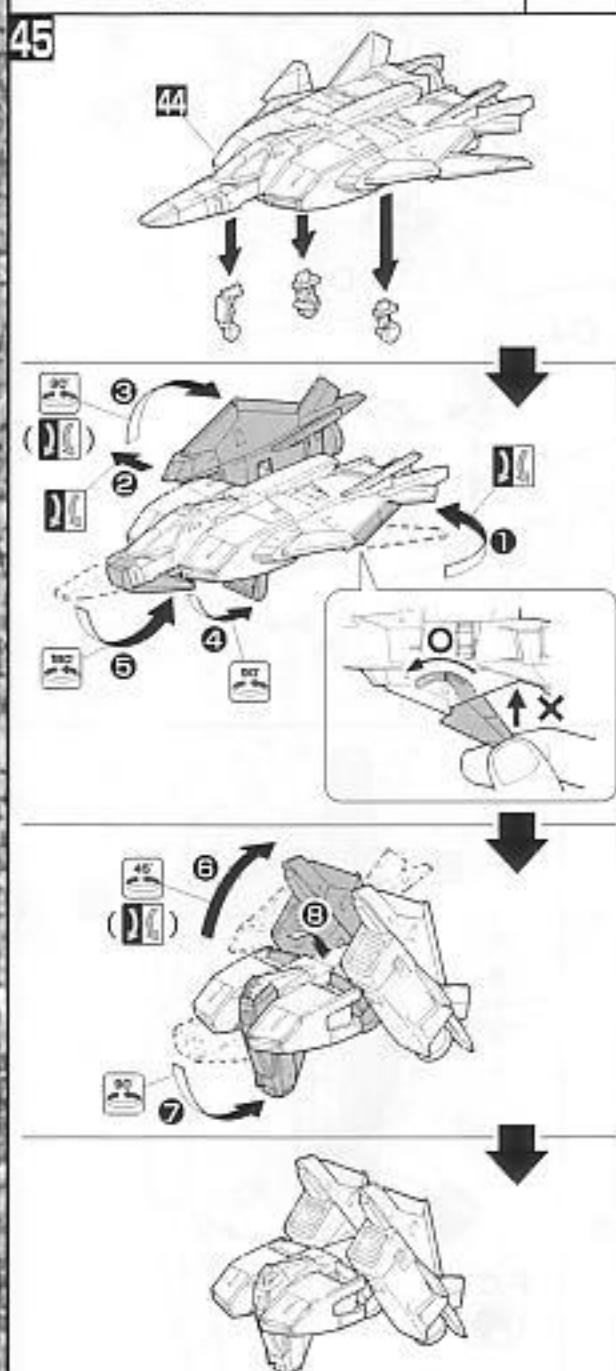
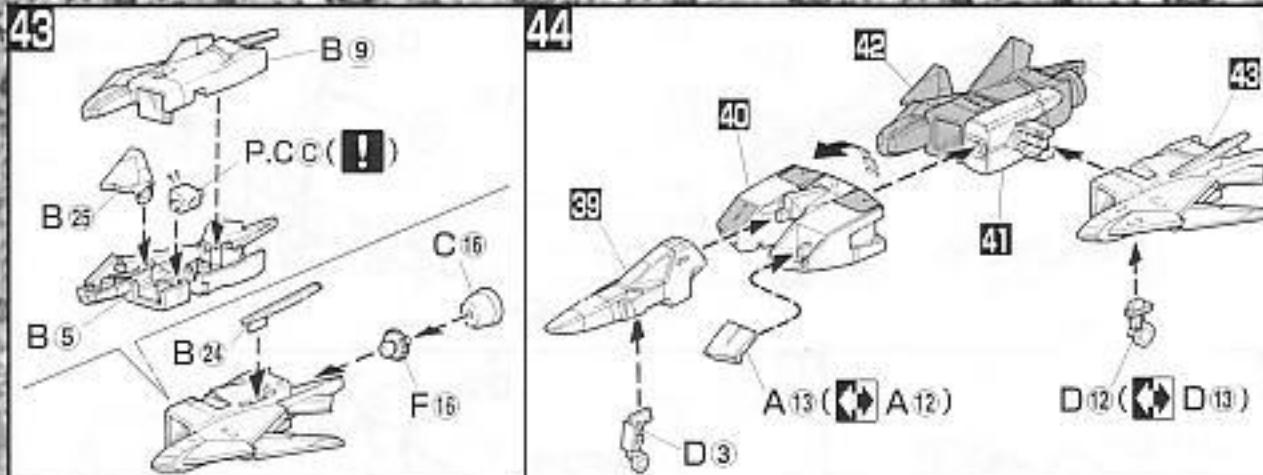
33



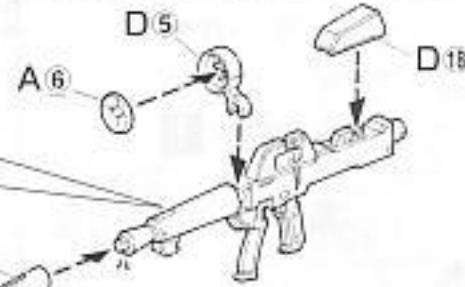
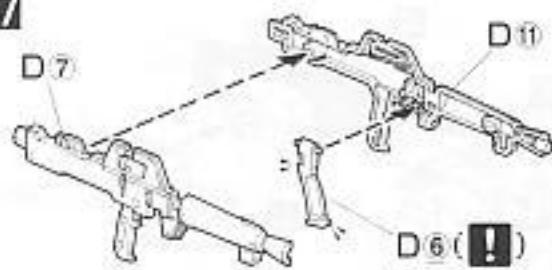
34



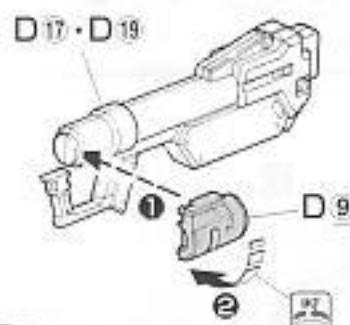




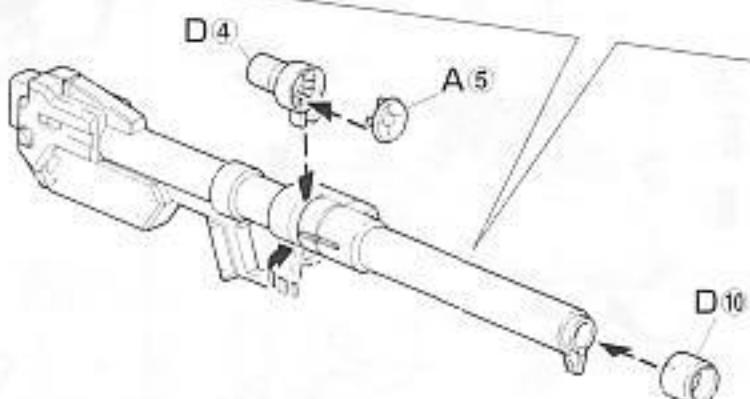
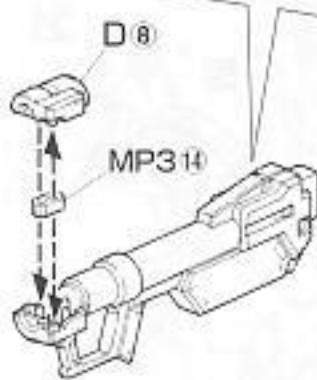
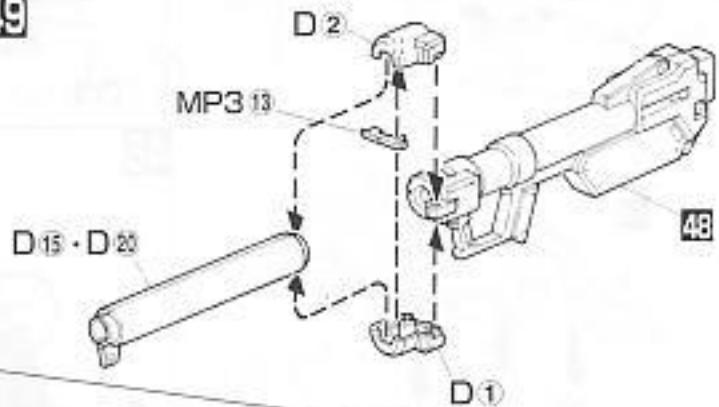
47



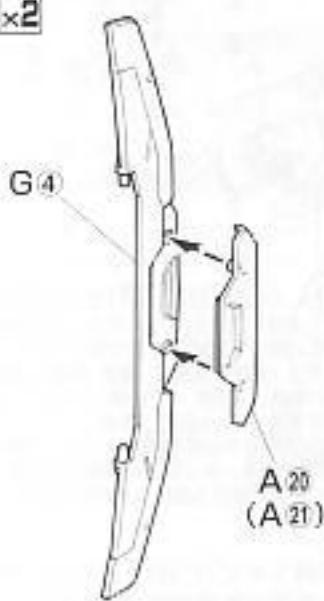
48



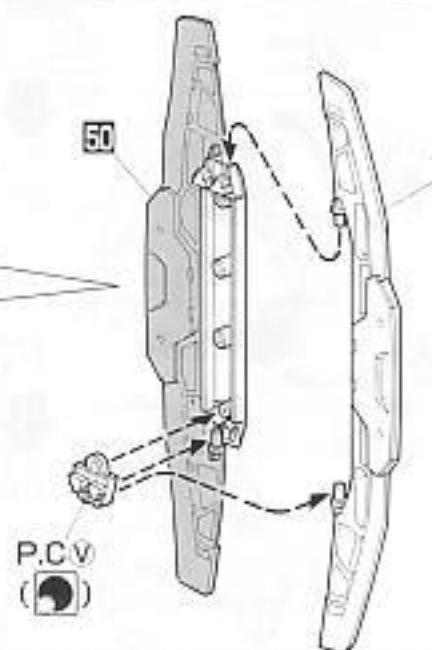
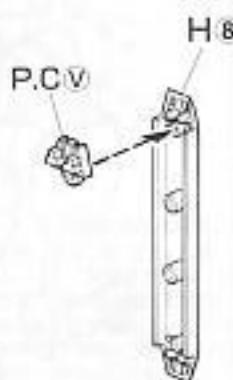
49



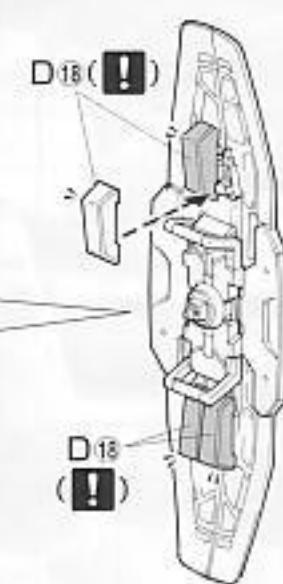
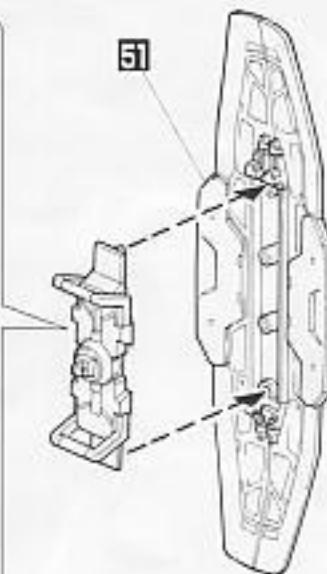
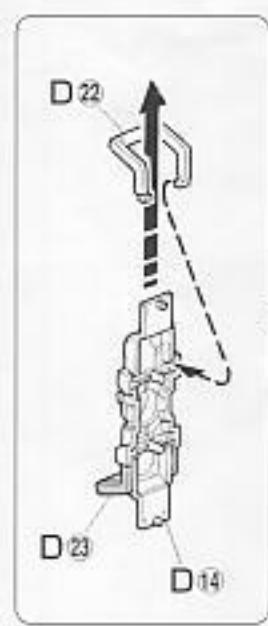
50



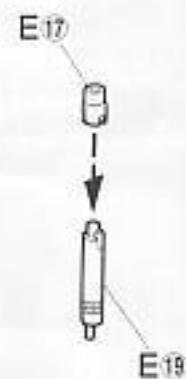
51



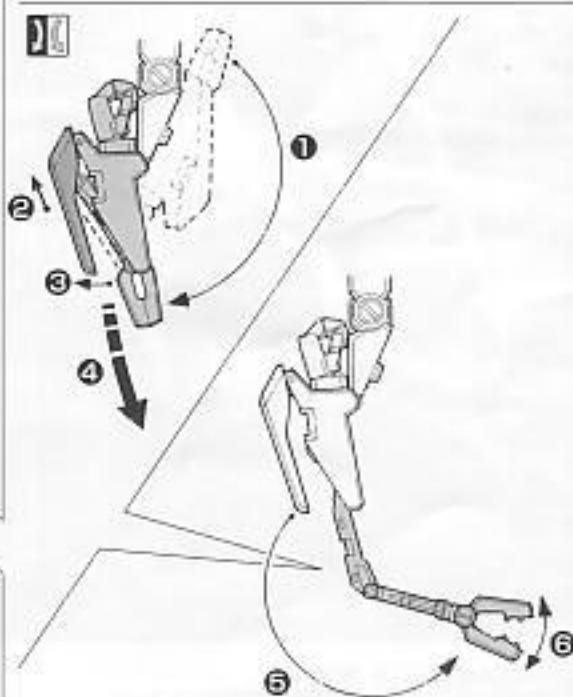
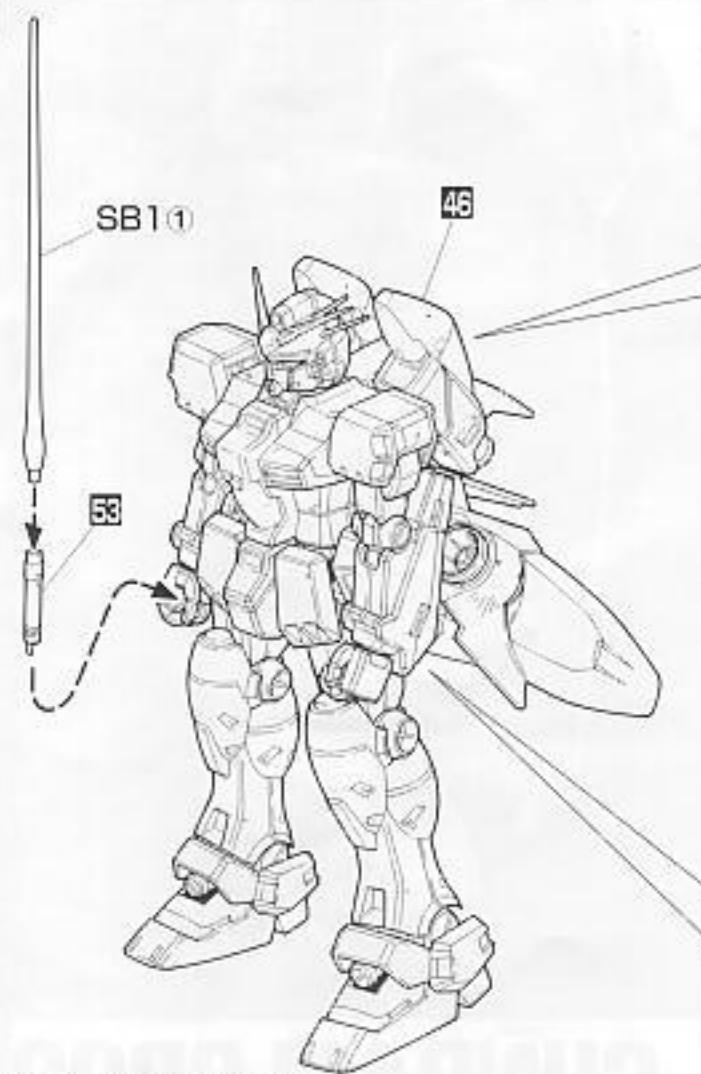
52



53 ×2

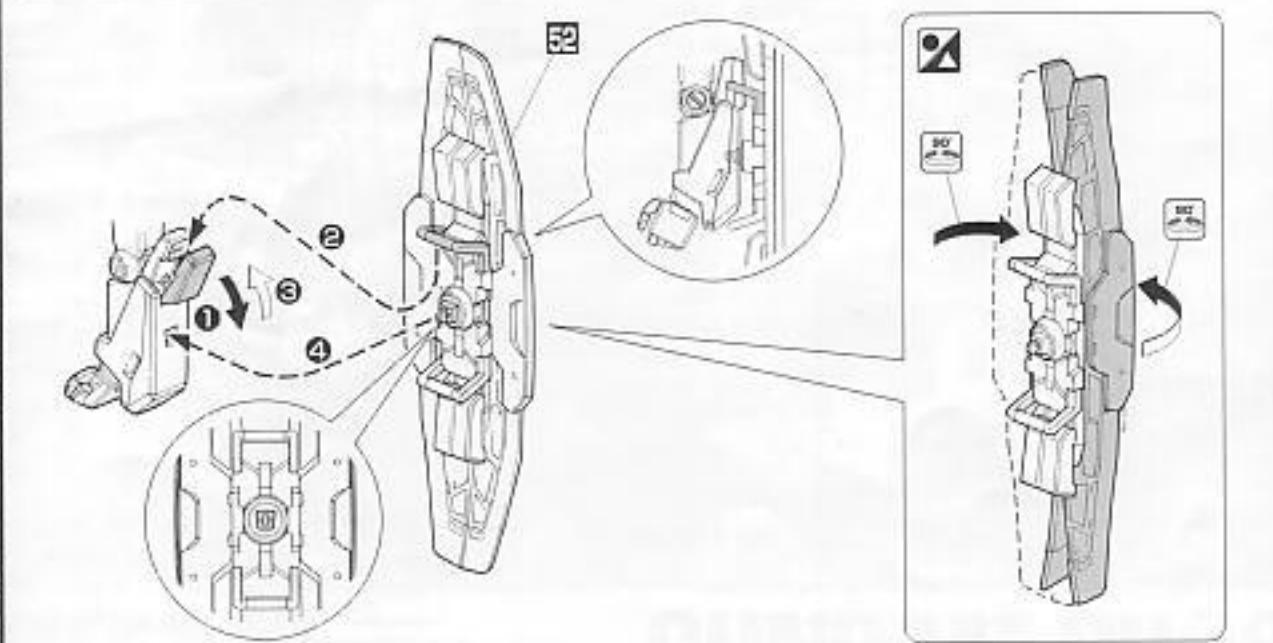
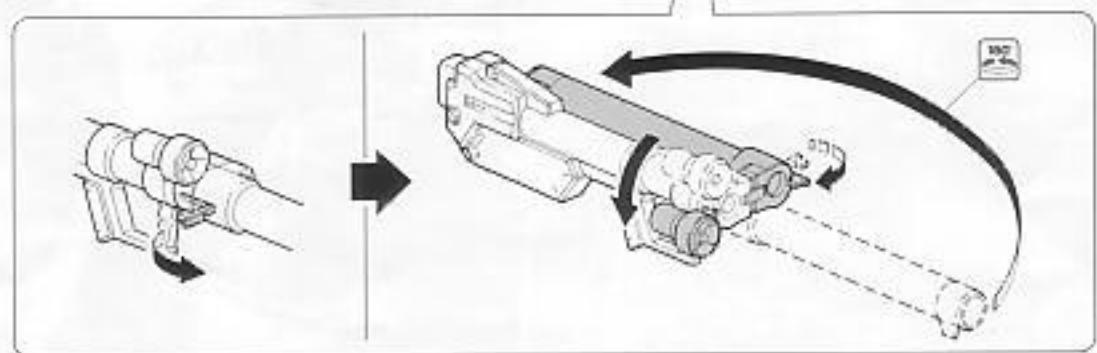
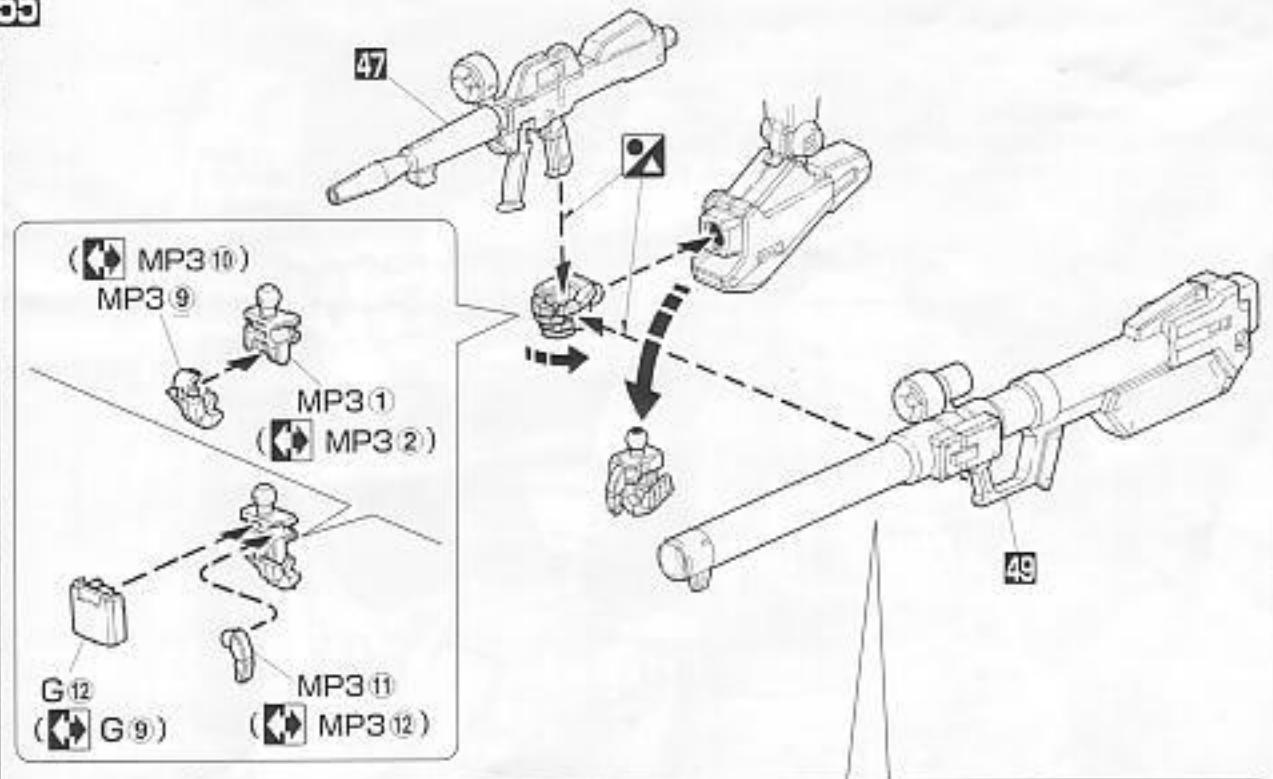


54



※H1行はお好みの場所に貼ってください。

55

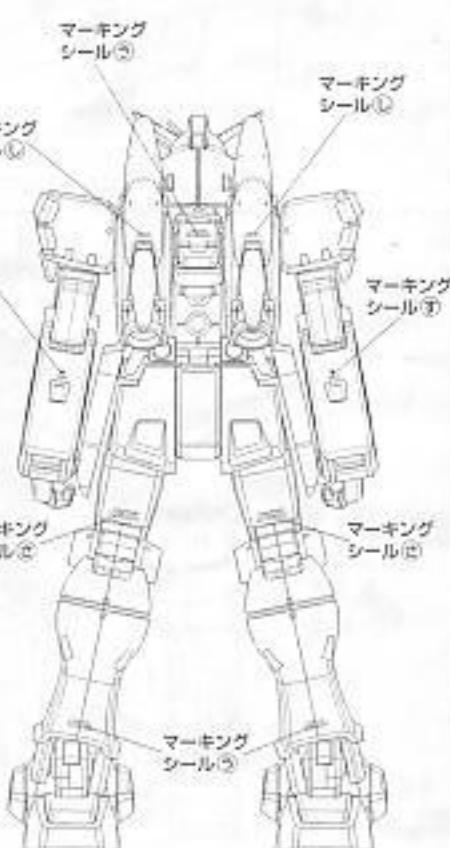
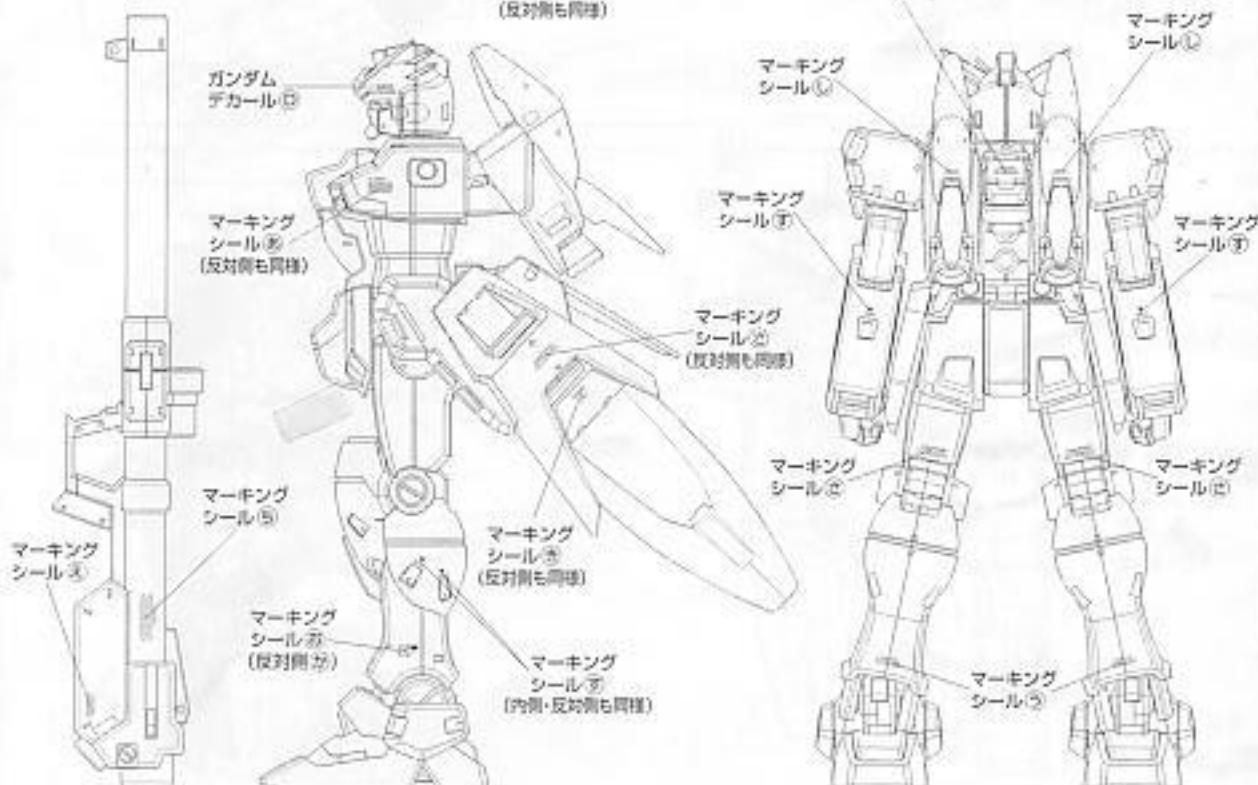
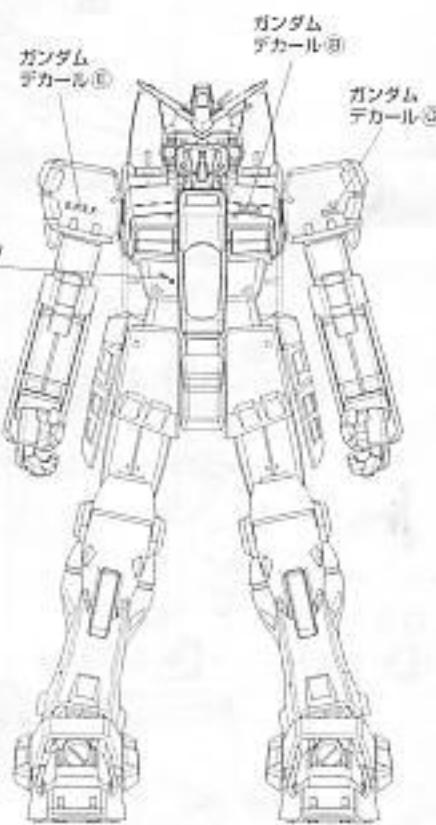
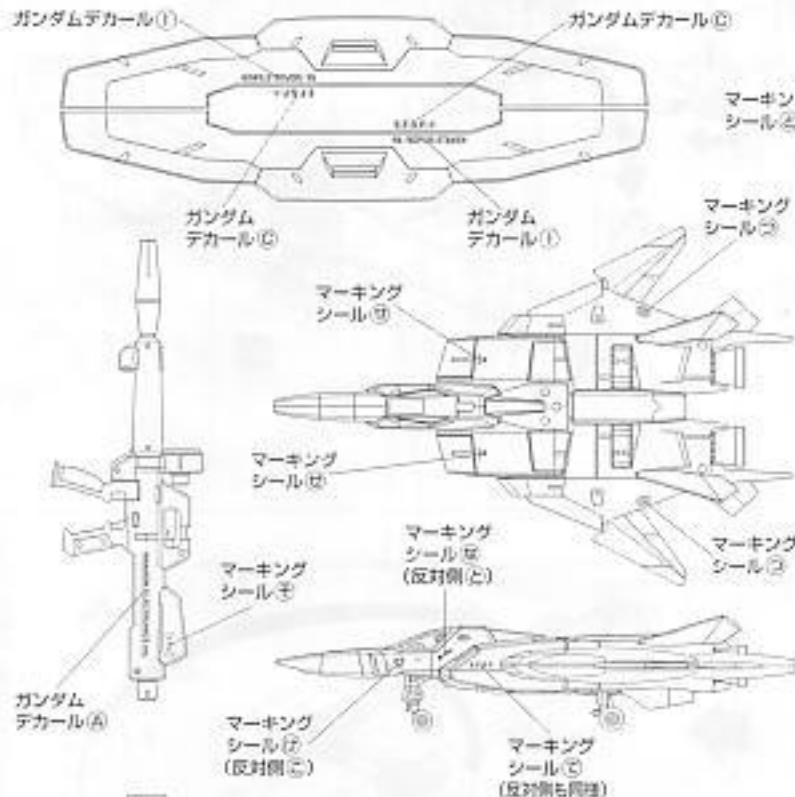


Seal

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。

ガンダムデカールのはりかた。

- 転写するマークを大まかに切ります。
- 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
- シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



協力：ホビージャパン



地球連邦軍
宇宙用攻撃型試作モビルスーツ
RX-78GP03S「ガンダム試作3号機 スタイメン」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

GUNDAM GP03S
F.F.S.F. ATTACK USE PROTOTYPE MOBILE SUIT

Scanned by Dafong.net